

令和 4 年度

スポーツ鍼灸科 シラバス

こころ医療福祉専門学校

(学校法人 岩永学園)

スポーツ鍼灸科 SK20A SK21A SK22A

分野	教育内容	必修	授 業 科 目	区分	単位	科目	1 年次		2 年次		3 年次			
		選択			数	時間	前	後	前	後	前	後		
基礎	科学的思考の 基盤 人間と生活	必修	スポーツ健康学Ⅰ(保健体育)	講義	4	60	30	30						
		必修	スポーツ健康学Ⅱ(生物学)	講義	4	60	30	30						
		必修	スポーツ健康学Ⅲ(栄養学)	講義	2	30	30							
		必修	スポーツ健康学Ⅳ(コミュニケーション)	講義	2	30		30						
		必修	スポーツ健康学Ⅴ(体力学)	講義	2	30		30						
専門基礎	人体の構造と 機能	必修	解剖学Ⅰ	講義	2	60	30	30						
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60			30	30				
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30						
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30				
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	1	30	15	15						
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	30			15	15				
		必修	運動学	講義	2	30				30				
	疾病の成り立ち、 予防及び 回復の促進	必修	臨床医学総論	講義	4	60			30	30				
		必修	臨床医学各論Ⅰ	講義	2	60			30	30				
		必修	臨床医学各論Ⅱ	講義	2	60					30	30		
		必修	病理学概論	講義	2	60			30	30				
	保健医療福祉とはり 及びきゅうの理念	必修	リハビリテーション医学	講義	2	30			30					
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	1	30	30							
		必修	医療概論(職業倫理)	講義	1	15					15			
		必修	関係法規(社会保障制度)	講義	1	15					15			
		専門	基礎はりきゅう 学	必修	基礎はりきゅう学Ⅰ(東洋医学概論Ⅰ)	講義	2	60	30	30				
				必修	基礎はりきゅう学Ⅱ(歴史)	講義	1	30	15	15				
必修	基礎はりきゅう学Ⅲ(経絡経穴概論)			講義	2	60	30	30						
必修	基礎はりきゅう学Ⅳ			講義	1	30	15	15						
必修	基礎はりきゅう学Ⅴ(東洋医学概論Ⅱ)			講義	2	60			30	30				
臨床はりきゅう 学	必修		基礎はりきゅう学Ⅵ	講義	1	30			15	15				
	必修		臨床はりきゅう学Ⅰ(東洋医学臨床論Ⅰ)	講義	2	60			30	30				
	必修		臨床はりきゅう学Ⅱ	講義	1	30			15	15				
	必修		臨床はりきゅう学Ⅲ(東洋医学臨床論Ⅱ)	講義	2	60					30	30		
	必修		臨床はりきゅう学Ⅳ	講義	1	30					15	15		
	必修		臨床はりきゅう学Ⅴ(東洋医学臨床論Ⅲ)	講義	2	60					30	30		
	必修	臨床はりきゅう学Ⅵ	講義	1	30					15	15			
	必修	臨床はりきゅう学Ⅶ(東洋医学臨床論Ⅳ)	講義	2	60					30	30			
必修	臨床はりきゅう学Ⅷ(はりきゅう理論)	講義	2	60					30	30				
社会はりきゅう学	必修	社会はりきゅう学	講義	2	30					30				
専門	実習	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実技	2	60	30	30						
		必修	はりきゅう実技Ⅱ	実技	2	60	30	30						
		必修	はりきゅう実技Ⅲ(臨床実習前施術実技試験)	実技(集中)	2	60	30	30						
		必修	はりきゅう実技Ⅳ	実技	2	60			30	30				
		必修	はりきゅう実技Ⅴ	実技	2	60			30	30				
		必修	はりきゅう実技Ⅵ	実技	2	60			30	30				
		必修	はりきゅう実技Ⅶ	実技	2	60					30	30		
		必修	はりきゅう実技Ⅷ	実技	2	60					30	30		
	臨床実習	必修	はりきゅう臨床実習Ⅰ	実技(集中)	1	45		45						
		必修	はりきゅう臨床実習Ⅱ	実技(集中)	1	45			45					
		必修	はりきゅう臨床実習Ⅲ	実技(集中)	1	45				45				
		必修	はりきゅう臨床実習Ⅳ	実技(集中)	1	45					45			
	総合領域	必修	総合領域Ⅰ(生体観察)	講義	2	60	30	30						
		必修	総合領域Ⅱ(病態生理学)	講義	2	60			30	30				
		必修	総合領域Ⅲ	講義	2	60					30	30		
		必修	総合領域Ⅳ	講義	1	30					15	15		
		必修	総合領域Ⅴ	講義	2	60					30	30		
必修		総合領域Ⅵ	講義	1	30					30				
必修		総合領域Ⅶ	講義	1	30						30			
必修		総合領域Ⅷ	講義	1	30						30			
必修	総合領域Ⅸ	講義	2	75							75			
合計					99	2655	405	450	450	450	450	450		

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床医学各論Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

諸疾患について，成因，病態生理，症状，検査，治療を学習する。

2 到達目標

諸疾患の成因，病態生理，主な症状，主な検査，治療法，予後について，キーワードをあげて説明できる。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は，臨床医学各論の教科書だけではなく，解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み，疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材，教具

「臨床医学各論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

「NHKきょうの健康」NHK出版

8 学生へのメッセージ

患者さんの施術をしていると，多くの病気の知識が必要であることを実感します。病気を知ることは，いい鍼灸施術にもつながるという担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床医学各論Ⅱ ）

回数	授業内容
1	第 1 1 章 神経疾患（1）運動の異常
2	第 1 1 章 神経疾患（2）脳血管疾患
3	第 1 1 章 神経疾患（3）感染性疾患
4	第 1 1 章 神経疾患（4）脳・脊髄腫瘍
5	第 1 1 章 神経疾患（5）基底核変性疾患
6	第 1 1 章 神経疾患（6）その他の変性疾患
7	第 1 1 章 神経疾患（7）認知症性疾患
8	第 1 1 章 神経疾患（8）筋疾患，運動ニューロン疾患，脱髄性疾患
9	第 1 1 章 神経疾患（9）末梢性神経疾患①
10	第 1 1 章 神経疾患（10）神経痛，機能的疾患
11	第 1 2 章 リウマチ性疾患・膠原病（1）リウマチ性疾患
12	第 1 2 章 リウマチ性疾患・膠原病（2）膠原病
13	第 1 3 章 その他の領域（1）小児の疾患
14	第 1 3 章 その他の領域（2）一般外科
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第 1 3 章 その他の領域（3）麻酔科
18	第 1 3 章 その他の領域（4）婦人科疾患
19	第 1 3 章 その他の領域（5）皮膚科疾患
20	第 1 3 章 その他の領域（6）眼科疾患
21	第 1 3 章 その他の領域（7）耳鼻科疾患
22	第 1 3 章 その他の領域（8）精神科疾患
23	第 1 3 章 その他の領域（9）診療内科
24	第 1 3 章 その他の領域（10）その他
25	第 1 3 章 その他の領域（11）過去問解説
26	疾患の総合的知識整理（1）
27	疾患の総合的知識整理（2）
28	疾患の総合的知識整理（3）
29	疾患の総合的知識整理（4）
30	疾患の総合的知識整理（5）
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療概論（職業倫理） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

医学と医療の歴史および現代の医療制度と倫理観を認識し、はり師・きゅう師に関わる法律知識について学習する。医療概論における問題を理解できるようになる。はり師・きゅう師として必要な歴史と倫理を理解し、医療人としての規範を逸脱することのないようにする。

2 到達目標

現代日本の医療制度と課題点、医療従事者としての倫理を説明できる。

3 授業の方法

教科書と配付資料を中心に授業を行う。

4 成績評価方法・基準

前期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各単元終了後に小テストを行いますので、配付資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「医療概論」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

医療現場に関わる様々な制度・法律や倫理観は医療人として、必要な知識です。
コツコツ勉強していきましょう。資料はちゃんとファイリングしておきましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 医療概論（職業倫理） ）

回数	授業内容
1	第1章 医学史
2	第2章 現代の医学と医療 現代医学の課題
3	第2章 現代の医学と医療 医療従事者と医療施設
4	第2章 現代の医学と医療 医療と医療経済
5	第2章 現代の医学と医療 医療保険のしくみ①
6	第2章 現代の医学と医療 医療保険のしくみ②
7	第2章 現代の医学と医療 介護保険制度
8	第3章 医療倫理 医療者の倫理
9	第3章 医療倫理 医療者 - 患者の倫理
10	第3章 医療倫理 医学 - 社会の倫理
11	第3章 施術者としての倫理
12	まとめ
13	演習問題（1）
14	演習問題（2）
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規（社会保障制度） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

現代の医療制度を認識し、はり師・きゅう師に関わる法律知識について学習する。
関係法規における問題を理解できるようになる。はり師・きゅう師として必要な医療制度を理解し、医療人としての規範を逸脱することのないようにする。

2 到達目標

- ・免許の資格要件や違反した際の罰則などを覚える。
- ・医療法を分類できる。
- ・欠格事由を説明できる。

3 授業の方法

教科書と配付資料を中心に授業を行う。

4 成績評価方法・基準

前期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各単元終了後に小テストを行いますので、配付資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「関係法規 第7版」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

1回で覚えることは難しいので、反復して覚えていきましょう。
資料はファイリングしてください。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 関係法規（社会保障制度） ）

回数	授業内容
1	序論 法とは何か
2	第1章 あはき法 免許①
3	第1章 あはき法 免許②
4	第1章 あはき法 名簿の登録
5	第1章 あはき法 業務の範囲
6	第1章 あはき法 施術所の開設
7	第1章 あはき法 広告の制限・名称の制限
8	第1章 あはき法 罰則
9	第2章 関係法規 医事・薬事法規
10	第2章 関係法規 衛生関係法規
11	第2章 関係法規 環境衛生関係法規
12	第2章 関係法規 社会福祉関係法規①
13	第2章 関係法規 社会福祉関係法規②
14	まとめ 演習問題
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅲ（東洋医学臨床論Ⅱ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配付プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験での症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅲ（東洋医学臨床論Ⅱ） ）

回数	授業内容
1	第1章 総論
2	第2章 疼痛（1）概説
3	第2章 疼痛（2）頭痛
4	第2章 疼痛（3）顔面痛
5	第2章 疼痛（4）関節痛
6	第2章 疼痛（5）頸肩腕痛
7	第2章 疼痛（6）上肢痛
8	第2章 疼痛（7）肩関節痛
9	第2章 疼痛（8）腰下肢痛
10	第2章 疼痛（9）腰痛
11	第2章 疼痛（10）下肢痛
12	第2章 疼痛（11）膝痛
13	第2章 疼痛（12）胸痛
14	第2章 疼痛（13）腹痛
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章 全身の症候（1）疲労と倦怠感・発熱
18	第2章 全身の症候（2）冷え・のぼせ
19	第2章 全身の症候（3）浮腫・掻痒感
20	第2章 全身の症候（4）肌荒れ・発疹
21	第2章 その他の症候（1）顔面麻痺
22	第2章 その他の症候（2）歩行異常
23	第2章 その他の症候（3）口渇・出血傾向
24	第2章 女性特有の症候（1）月経異常
25	第2章 女性特有の症候（2）性器出血・帯下
26	第2章 女性特有の症候（3）不妊症・骨盤位
27	第2章 女性特有の症候（4）つわり・乳汁分泌不全
28	第2章 小児特有の症候（1）小児神経症
29	第2章 小児特有の症候（2）夜尿症
30	第2章 老年特有の症候
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

これまで学んできた鍼灸の東洋医学的知識を総合的に整理する。

2 到達目標

・人体の東洋医学的な生理と病理を、連続的な視点で考えることができるようになる。

3 授業の方法

教科書，配付プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

東洋医学概論の復習をして臨んでください。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

今まで，東洋医学的な生理と病理について学んできました。これらは独立したのではなく，連続した線上にあるものです。健康な状態があり、それが崩れるとどういう症状が表れるのか。理論立てて説明できるようになりましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	八綱弁証（１）表裏病証
2	八綱弁証（２）寒熱病証
3	八綱弁証（３）虚実病証
4	生理物質と気血津液弁証（１）気病証
5	生理物質と気血津液弁証（２）血病証
6	生理物質と気血津液弁証（３）津液病証・精病証
7	生理物質と気血津液弁証（４）陰陽病証
8	生理物質と気血津液弁証（５）複合病証
9	蔵象と臓腑弁証（１）脾胃病証
10	蔵象と臓腑弁証（２）心小腸病証
11	蔵象と臓腑弁証（３）肺大腸病証
12	蔵象と臓腑弁証（４）肝胆病証
13	蔵象と臓腑弁証（５）腎膀胱病証
14	蔵象と臓腑弁証（６）複合病証
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	経絡の流注と経絡弁証（１）三陰経脈病証
18	経絡の流注と経絡弁証（２）三陽経脈病証
19	経絡の流注と経絡弁証（３）奇経八脈病証
20	経絡の流注と経絡弁証（４）絡脈病証・経筋病証・皮部病証
21	外感病因と六淫弁証
22	傷寒病と六経弁証
23	温病と衛気営血弁証
24	湿熱病と三焦弁証
25	四診（１）望診 部分望診
26	四診（２）望診 舌診
27	四診（３）聞診
28	四診（４）切診 腹診
29	四診（５）切診 脈診
30	四診（６）問診
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅴ（東洋医学臨床論Ⅲ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

・症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配付プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験での症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅴ（東洋医学臨床論Ⅲ） ）

回数	授業内容
1	第2章 臓腑と関連する症候（1）肝系統 眼精疲労
2	第2章 臓腑と関連する症候（2）肝系統 気分障害・めまい
3	第2章 臓腑と関連する症候（3）心系統 動悸・息切れ
4	第2章 臓腑と関連する症候（4）心系統 血圧異常・睡眠異常
5	第2章 臓腑と関連する症候（5）脾系統 食欲不振・肥満・やせ
6	第2章 臓腑と関連する症候（6）脾系統 悪心・嘔吐
7	第2章 臓腑と関連する症候（7）脾系統 便秘・下痢
8	第2章 臓腑と関連する症候（8）脾系統 歯痛
9	第2章 臓腑と関連する症候（9）肺系統 咳嗽と喀痰
10	第2章 臓腑と関連する症候（10）肺系統 呼吸困難
11	第2章 臓腑と関連する症候（11）肺系統 鼻閉・鼻汁
12	第2章 臓腑と関連する症候（12）腎系統 脱毛症
13	第2章 臓腑と関連する症候（13）腎系統 耳鳴り・難聴
14	第2章 臓腑と関連する症候（14）腎系統 排尿障害・ED
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	四択演習（1）疼痛①
18	四択演習（2）疼痛②
19	四択演習（3）臓腑と関連する症候 肝系統
20	四択演習（4）臓腑と関連する症候 心系統
21	四択演習（5）臓腑と関連する症候 脾系統①
22	四択演習（6）臓腑と関連する症候 脾系統②
23	四択演習（7）臓腑と関連する症候 肺系統
24	四択演習（8）臓腑と関連する症候 腎系統
25	四択演習（9）全身の症候
26	四択演習（10）その他の症候
27	四択演習（11）女性特有の症候①
28	四択演習（12）女性特有の症候②
29	四択演習（13）小児特有の症候
30	四択演習（14）老年特有の症候
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅵ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

徒手検査，ROMテスト，MMT，神経学的検査等の検査法を学ぶ。
また，リハビリテーションに必要な種々の評価法も学習する。

2 到達目標

- ・検査法とそれから考えられる疾患を説明できる。
- ・検査，評価法を適切に実施できる。

3 授業の方法

教科書，配付資料を使用して授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書，配付資料での予習・復習を行い，国家試験過去問を解くこと。

7 使用教材，教具

原田晃 著「イラストで楽しく学ぶ徒手検査インパクト」医道の日本社
東洋療法学校協会編「リハビリテーション医学」（第4版）医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

検査法や評価法は，適切に実施できるようになるために訓練が必要です。
学習を始めた段階では，覚えることに苦勞してしまい，臨床に活用することが難しい
です。だからこそ，継続して訓練することが，何より大切なので頑張りましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	運動器の検査法（１） 身体計測，ROMテスト
2	運動器の検査法（２） MMT（徒手筋力テスト）
3	運動器の検査法（３） 上肢の検査法
4	運動器の検査法（４） 下肢の検査法
5	運動器の検査法（５） 体幹部の検査法
6	運動器の検査法（６） 腱反射，知覚検査
7	ADLの評価法（バーゼルインデックス，FIM）
8	知能評価
9	心疾患，呼吸器疾患の評価
10	脳卒中の評価，装具の使用法
11	脊髄損傷，パーキンソン病の評価
12	歩行周期の分析
13	運動発達，原始反射
14	フレイル，サルコペニア，ロコモティブシンドロームの評価
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅶ（東洋医学臨床論） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

2年次までに学習した経絡経穴概論・臨床医学各論・東洋医学臨床論の知識を総合的に整理し、国家試験の過去問題を解きながら、鍼灸師として必要な知識を深める。

2 到達目標

- ・筋・血管・神経など解剖学的な知識で経絡・経穴を選経・選穴できる。
- ・模擬患者によるロールプレイで、鑑別を行い、疾患を特定できる。
- ・上記に関連する国試過去問および類似問題を理解し、解答できる。

3 授業の方法

教科書、配付プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は、臨床医学各論の教科書だけではなく、解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み、疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「新版経絡経穴概論」医道の日本社、「東洋医学臨床論」南江堂
「臨床医学各論」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

習得した知識を臨床活用するためのトレーニングを行います。担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅶ（東洋医学臨床論） ）

回数	授業内容
1	経絡経穴の総合的知識整理（1）基礎
2	経絡経穴の総合的知識整理（2）接続、流注
3	経絡経穴の総合的知識整理（3）骨度法
4	経絡経穴の総合的知識整理（4）始まりと終わり、要穴
5	経絡経穴の総合的知識整理（5）手の三陰三陽経、足の三陰三陽経
6	経絡経穴の総合的知識整理（6）胸腹部、腰背部① 表に記入
7	経絡経穴の総合的知識整理（7）胸腹部、腰背部② 図に記入（腰背部）
8	経絡経穴の総合的知識整理（8）胸腹部、腰背部③ 図に記入（胸腹部）
9	経絡経穴の総合的知識整理（9）横並び、顔、頭、頸
10	経絡経穴の総合的知識整理（10）筋
11	経絡経穴の総合的知識整理（11）神経
12	経絡経穴の総合的知識整理（12）血管
13	経絡経穴の総合的知識整理（13）奇経八脈
14	経絡経穴の総合的知識整理（14）現代的研究、奇穴
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	疾患の総合的知識整理（1）感染症
18	疾患の総合的知識整理（2）消化管疾患
19	疾患の総合的知識整理（3）肝胆脾疾患
20	疾患の総合的知識整理（4）呼吸器疾患
21	疾患の総合的知識整理（5）腎・尿器疾患
22	疾患の総合的知識整理（6）内分泌疾患
23	疾患の総合的知識整理（7）代謝栄養疾患
24	疾患の総合的知識整理（8）整形外科疾患
25	疾患の総合的知識整理（9）循環器疾患
26	疾患の総合的知識整理（10）血液・造血器疾患
27	疾患の総合的知識整理（11）神経疾患
28	疾患の総合的知識整理（12）リウマチ性疾患・膠原病
29	疾患の総合的知識整理（13）その他の領域
30	疾患の総合的知識整理（14）まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅷ（はりきゅう理論） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

はりきゅう理論の教科書に基づいた鍼灸の作用機序への理解を深める。
後期については、国家試験に向けての対策を行う。

2 到達目標

臨床時に使用するはり・きゅうの作用機序を身に付け国家試験や臨床に応用できるようになる。

3 授業の方法

配布プリントを中心に講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

小テストを行います。全てクリアしなければ定期試験を受けることができません。
できるだけ欠席しないようお願いします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

神経系の生理学知識が必要となります。不十分な学生は神経系の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「はりきゅう理論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

鍼灸の作用機序を理解し，臨床に役立ててください。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 本田 ちづる ）

所 属（ ヒューマンネットワークデイリハステーション福田 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅷ（はりきゅう理論） ）

回数	授業内容
1	第1章 概論 第2章 鍼の基礎知識
2	第3章 刺鍼の方式と術式（1）
3	第3章 刺鍼の方式と術式（2）
4	第4章 特殊鍼法
5	第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類
6	第7章 鍼灸の臨床応用 第8章 リスク管理
7	第9章 鍼灸治効の基礎（1）
8	第9章 鍼灸治効の基礎（2）
9	第9章 鍼灸治効の基礎（3）
10	第9章 鍼灸治効の基礎（4）
11	第10章 鍼灸療法の一般治効理論（1）
12	第10章 鍼灸療法の一般治効理論（2）
13	第11章 関連学説
14	国試対策問題
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第1章 感染症，第2章 消化管疾患
18	第3章 肝・胆・膵疾患，第4章 呼吸器疾患
19	第5章 腎・泌尿器疾患，第6章 内分泌疾患
20	第7章 代謝，栄養疾患，第8章 整形外科疾患
21	第8章 整形外科疾患（1）
22	第8章 整形外科疾患（2）
23	第9章 循環器疾患（1）
24	第9章 循環器疾患（2）
25	はりきゅう理論 総合（1）概論 鍼の基礎知識
26	はりきゅう理論 総合（2）刺鍼の方式と術式
27	はりきゅう理論 総合（3）特殊鍼法 灸の基礎知識
28	はりきゅう理論 総合（4）灸術の種類 鍼灸の臨床応用
29	はりきゅう理論 総合（5）リスク管理 鍼灸治効の基礎
30	はりきゅう理論 総合（6）一般治効理論 関連学説
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会はりきゅう学 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

社会的ニーズと鍼灸師の役割を理解し、適切な施術や治療院経営ができるように学習する。

2 到達目標

社会から期待される鍼灸師の役割を理解し、将来の治療院経営をイメージする。

3 授業の方法

教科書，配付プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

レポート 100%（後期の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書をもとに授業をすすめます。関連書籍，雑誌，ニュースやテレビ番組などでも情報を集め，将来の仕事のイメージをもてるようにしましょう。

7 使用教材，教具

「社会あはき学」医道の日本社，配付プリント

8 学生へのメッセージ

自分がなりたい鍼灸師像をイメージするためには，鍼灸師が社会から何を期待されているかを知り，考えることが必要です。担当教員が臨床で経験し，感じたことも交えて，様々な場面で期待される鍼灸師像とそのために必要な知識を伝えます。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 社会はりきゅう学 ）

回数	授業内容
1	授業説明，日本における鍼灸の歴史と現況概観①
2	日本における鍼灸の歴史と現況概観②
3	現代の鍼灸における社会的背景と展望
4	現代社会における医療制度の現状（日本，海外におけるはき）
5	医療保険制度の概要
6	介護保険制度の概要
7	あはき治療と健康保険と療養費払い制度の概略
8	療養費，はりきゅう施術助成金について
9	介護保険施設業務と介護報酬
10	地域で期待されるあはき師の業務「在宅医療」
11	地域で期待されるあはき師の業務「併用するその他の療法」物理療法
12	就職先の選び方
13	履歴書を書いてみよう（１）下書き
14	履歴書を書いてみよう（２）プロフィール，下書き仕上げ
15	履歴書を書いてみよう（３）清書，提出
16	面接の受け方，面接官になってみよう
17	施術所の経営展開（１）患者さんが来る鍼灸院（実習報告書を読んで再考）
18	施術所の経営展開（２）患者さんが来る鍼灸院（ワーク）
19	施術所の経営展開（３）開業をイメージしよう
20	施術所の経営展開（４）治療院名，事業の概要，開業の動機
21	施術所の経営展開（５）実績，事業内容
22	施術所の経営展開（６）市場規模，成長性，競合優位性
23	施術所の経営展開（７）信用保証協会，銀行
24	施術所の経営展開（８）営業活動
25	施術所の経営展開（９）集患者，見込顧客
26	施術所の経営展開（１０）協力者，提携先，その他
27	施術所の経営展開（１１）資金計画
28	施術所の経営展開（１２）レポート完成，チェック，提出
29	施術所の経営展開（１３）創業支援セミナー
30	施術所の経営展開（１４）発表①
31	施術所の経営展開（１５）発表②
32	施術所の経営展開（１６）発表③

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ鍼灸 科

学年 3 年

1 授業の内容

経絡治療をベースとした全身調整治療に加え、顔面部の悩みを解決していく総合的な鍼灸実技を行ないます。

2 到達目標

- ・痛くない鍼を丁寧に打てるようになる。
- ・六部定位脈診ができるようになる。
- ・本治法・標治法を行ない、症状を改善できるようになる。
- ・顔面部への施術を安全に行えるようになる。

3 授業の方法

講師による講義・デモンストレーション後、学生同士ペアで実技実習を行う。

4 成績評価方法・基準

授業内評価 60%，実技試験 40%

5 評価の際の特記事項

- ・授業時数の5分の4に達しない者は成績評価の対象とならない。
- ・授業態度不良者（遅刻、忘れ物、授業への積極性の欠如など）は減点します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技術の習得や上達は経験値の集積によるものなので、実技練習は授業内にとどまらず、自分の身体や友人家族などの協力を得て練習し、授業内容の復習に勤しんで下さい。

7 使用教材、教具

授業内容に従ってプリントを配布。その都度、参考文献を紹介いたします。

「図解 よくわかる経絡治療講義」大上勝行 著（医道の日本社）

「これから目指す人のための美容鍼灸ハンドブック（フレグランスジャーナル社）など

8 学生へのメッセージ

これから鍼灸師として社会で活躍する皆さんは老若男女、職業に関係なく様々な方の人生に鍼灸施術を通して触れあう事となります。患者さんに気持ちよく安心して施術を受けていただくためのホスピタリティやコミュニケーションスキルなど、開業鍼灸師としての知恵を授業の中でお伝えします。

9 教員氏名（ 小嶺由美 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	シラバス説明 経絡治療概論 ベッドサイドティーチング
2	腹診
3	背候診
4	四肢切経
5	脈診
6	本治法：肝虚証（１）
7	本治法：肝虚証（２）
8	本治法：腎虚証（１）
9	本治法：腎虚証（２）
10	本治法：肺虚証（１）
11	本治法：肺虚証（２）
12	本治法：脾虚証（１）
13	本治法：脾虚証（２）
14	本治法：肝実証（１）
15	本治法：肝実証（２）
16	美容鍼灸概論（１）
17	美容鍼灸概論（２）
18	フェイシャルオイルトリートメント（タオルターバン・オイル塗布）
19	体質別フェイシャルオイルトリートメント 脾タイプ
20	体質別フェイシャルオイルトリートメント 肺タイプ
21	体質別フェイシャルオイルトリートメント 腎タイプ
22	体質別フェイシャルオイルトリートメント 肝タイプ
23	体質別美容鍼灸 脾タイプ（１）
24	体質別美容鍼灸 脾タイプ（２）
25	体質別美容鍼灸 肺タイプ（１）
26	体質別美容鍼灸 肺タイプ（２）
27	体質別美容鍼灸 腎タイプ（１）
28	体質別美容鍼灸 腎タイプ（２）
29	体質別美容鍼灸 肝タイプ（１）
30	体質別美容鍼灸 肝タイプ（２）
31	実技試験
32	実技試験のフィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅷ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

- ・リハビリテーション医学の国家試験の過去問を使って演習を行う。
- ・高齢者特有の疾患に対する施術についての実技を行う。
- ・はりきゅう理論の反射と治功機序について学び、実技で実践する。

2 到達目標

- ・リハビリテーション医学の知識を整理する。
- ・はりきゅう理論の知識を整理する。

3 授業の方法

教科書，配付プリントで国家試験の対策を行う。

全体への説明後，教員によるデモンストレーションを見学し，学生ペアで実技を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「リハビリテーション医学 第4版」医道の日本社

「はりきゅう理論 第3版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

QOLの向上，ADLの獲得に向けたリハビリテーションを患者や利用者に提供できるように，理解を深めましょう。反射や治功機序を学び，鍼灸を施す意義を一緒に考えましょう。治功機序に関しては，実際に体験してみるとより一層理解が深まります。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう実技Ⅷ ）

回数	授業内容
1	リハビリテーション医学の復習（１）障害と医療
2	リハビリテーション医学の復習（２）障害の評価
3	リハビリテーション医学の復習（３）医学的リハビリテーション
4	リハビリテーション医学の復習（４）脳卒中
5	リハビリテーション医学の復習（５）脊髄損傷
6	リハビリテーション医学の復習（６）切断・脳性麻痺
7	リハビリテーション医学の復習（７）骨関節疾患・関節リウマチ
8	リハビリテーション医学の復習（８）末梢神経障害・パーキンソン病
9	リハビリテーション医学の復習（９）呼吸器疾患・心疾患
10	運動学の復習 正常歩行と異常歩行
11	リハビリテーション・運動学まとめ
12	高齢者特有の疾患（１）パーキンソン病
13	高齢者特有の疾患（２）認知症
14	高齢者特有の疾患（３）脳血管障害後遺症
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	高齢者特有の疾患（４）白内障・緑内障
18	高齢者特有の疾患（５）フレイル
19	はりきゅう理論の復習（１）生体の調節 運動系
20	はりきゅう理論の復習（２）生体の調節 運動系 演習
21	はりきゅう理論の復習（３）生体の調節 内臓系
22	はりきゅう理論の復習（４）生体の調節 内臓系 演習
23	はりきゅう理論の復習（５）治功機序 鍼鎮痛
24	はりきゅう理論の復習（６）治功機序 鍼鎮痛 演習
25	はりきゅう理論の復習（７）治功機序 循環系・運動系
26	はりきゅう理論の復習（８）治功機序 循環系・運動系 演習
27	はりきゅう理論の復習（９）治功機序 消化器系・泌尿器系
28	はりきゅう理論の復習（１０）治功機序 消化器系・泌尿器系 演習
29	はりきゅう理論の復習（１１）治功機序 リラクセーション・生態防御系
30	はりきゅう理論の復習（１２）治功機序 リラクセーション・生態防御系 演習
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を体験し，一部を模倣・実践する。

2 到達目標

- ・態度・習慣 患者に対して適切な対応ができる。
- ・情報収集・記録 医療面接を実施し，SOAP形式で記録できる。
- ・施術へのアプローチ 施術計画を立案し，一部を実践できる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の継続評価，日誌，見学記録，実習参加シートをもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，質問するなど自ら調べ，記録すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅳ ）

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習（1）
2	施術所の運営および施術の体験・練習（1）
3	施術所の運営および施術の体験・練習（1） 4 5 分
4	施術所の運営および施術の体験・練習（2）
5	施術所の運営および施術の体験・練習（2）
6	施術所の運営および施術の体験・練習（2） 4 5 分
7	施術所の運営および施術の体験・練習（3）
8	施術所の運営および施術の体験・練習（3）
9	施術所の運営および施術の体験・練習（3） 4 5 分
10	施術所の運営および施術の体験・練習（4）
11	施術所の運営および施術の体験・練習（4）
12	施術所の運営および施術の体験・練習（4） 4 5 分
13	施術所の運営および施術の体験・練習（5）
14	施術所の運営および施術の体験・練習（5）
15	施術所の運営および施術の体験・練習（5） 4 5 分
16	施術所の運営および施術の体験・練習（6）
17	施術所の運営および施術の体験・練習（6）
18	施術所の運営および施術の体験・練習（6） 4 5 分
19	施術所の運営および施術の体験・練習（7）
20	施術所の運営および施術の体験・練習（7）
21	施術所の運営および施術の体験・練習（7） 4 5 分
22	施術所の運営および施術の体験・練習（8）
23	施術所の運営および施術の体験・練習（8）
24	施術所の運営および施術の体験・練習（8） 4 5 分
25	施術所の運営および施術の体験・練習（9）
26	施術所の運営および施術の体験・練習（9）
27	施術所の運営および施術の体験・練習（9） 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅲ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

鍼灸師として必要な基礎医学（生理学・解剖学）領域の知識のおさらいを中心に総合的に学習する。

2 到達目標

国試過去問をベースに，毎回の小テストで満点をめざす。最終的に国家試験合格に十分な整理された知識の獲得をめざす。

3 授業の方法

国家試験の過去問を中心に，数多くの問題を解き，問題ごとに解説を加える。

4 成績評価方法・基準

毎回実施する小テストの平均で，期末時に70%を超えた者を合格とする。

5 評価の際の特記事項

授業を休むと0点となり，平均点を大幅に下げることになる。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

間違った解答はその場で修正し，正しい解答と背景をその日のうちに掴んで帰る。

7 使用教材，教具

「生理学」（改定第3版）医歯薬出版

「解剖学」（改定第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

3年生はいよいよ国家試験受験のための総仕上げをする学年です。

これまで学習した知識を総動員して，鍼灸師として必要な基礎医学的な現象をより深く総合的に理解するよう心がけましょう。

9 教員氏名（ 藤村 幸一 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅲ ）

回数	授業内容
1	生理学領域の総合的知識整理 1 混合問題演習 40 問
2	生理学領域の総合的知識整理 2 血液・免疫・心臓・循環・呼吸（1）
3	生理学領域の総合的知識整理 3 血液・免疫・心臓・循環・呼吸（2）
4	生理学領域の総合的知識整理 4 血液・免疫・心臓・循環・呼吸（3）
5	生理学領域の総合的知識整理 5 消化吸収・栄養代謝・体温・尿排泄（1）
6	生理学領域の総合的知識整理 6 消化吸収・栄養代謝・体温・尿排泄（2）
7	生理学領域の総合的知識整理 7 消化吸収・栄養代謝・体温・尿排泄（3）
8	生理学領域の総合的知識整理 8 内分泌・生殖・老化・神経基礎・中枢神経系（1）
9	生理学領域の総合的知識整理 9 内分泌・生殖・老化・神経基礎・中枢神経系（2）
10	生理学領域の総合的知識整理 10 内分泌・生殖・老化・神経基礎・中枢神経系（3）
11	生理学領域の総合的知識整理 11 筋・運動調節・感覚（1）
12	生理学領域の総合的知識整理 12 筋・運動調節・感覚（2）
13	生理学領域の総合的知識整理 13 筋・運動調節・感覚（3）
14	生理学領域の総合的知識整理 14 総合問題 50 問（1）
15	生理学領域の総合的知識整理 15 総合問題 50 問（2）
16	生理学領域の総合的知識整理 16 総合問題 50 問（3）
17	解剖学領域の総合的知識整理 1 総合問題演習 40 問
18	解剖学領域の総合的知識整理 2 人体の構成・循環器・呼吸器・消化器 A（1）
19	解剖学領域の総合的知識整理 3 人体の構成・循環器・呼吸器・消化器 A（2）
20	解剖学領域の総合的知識整理 4 人体の構成・循環器・呼吸器・消化器 A（3）
21	解剖学領域の総合的知識整理 5 消化器 B・泌尿器・生殖器・神経系 A（1）
22	解剖学領域の総合的知識整理 6 消化器 B・泌尿器・生殖器・神経系 A（2）
23	解剖学領域の総合的知識整理 7 消化器 B・泌尿器・生殖器・神経系 A（3）
24	解剖学領域の総合的知識整理 8 神経系 B・感覚器・運動器総論（1）
25	解剖学領域の総合的知識整理 9 神経系 B・感覚器・運動器総論（2）
26	解剖学領域の総合的知識整理 10 神経系 B・感覚器・運動器総論（3）
27	解剖学領域の総合的知識整理 11 上肢・下肢・頭頸部（1）
28	解剖学領域の総合的知識整理 12 上肢・下肢・頭頸部（2）
29	解剖学領域の総合的知識整理 13 上肢・下肢・頭頸部（3）
30	解剖学領域の総合的知識整理 14 総合問題 50 問（1）
31	解剖学領域の総合的知識整理 15 総合問題 50 問（2）
32	解剖学領域の総合的知識整理 16 総合問題 50 問（3）

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

- ・ 国家試験に出題される傾向が高い内容を中心に，解剖学を総合的に復習する。
- ・ 1年生，2年生で理解が不十分な分野を明らかにして，自身の学習ポイントを探す。

2 到達目標

- ・ 授業内で四択問題を作成し，問題について解説できる。

3 授業の方法

- ・ 授業内の分野に沿った，国家試験問題を参考にして四択問題を作成する。
- ・ 作成した問題をクラス内で共有し，作成者は解説する。
- ・ 出題傾向の理解と，教科書や資料を熟読することを目的とする。
- ・ 分野の詳細や学習ポイントについて教員が，教科書や資料を使用して解説を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

国家試験過去問を解答し，教科書や資料を使って解説を作成する。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「解剖学」（第2版）医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

問題作成を通して，その分野について深く学ぶ機会が得られます。意図をもって作成することによって，問題読解力を培うこともでき，問題に対して考察する能力が身につきます。理解したことを，出力することで記憶の定着に結びつきます。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅳ ）

回数	授業内容
1	第1章 人体の構成 組織の分類
2	第10章 運動器系 頭蓋骨
3	第10章 運動器系 脊柱
4	第10章 運動器系 胸郭
5	第10章 運動器系 骨盤
6	第10章 運動器系 上肢の骨
7	第10章 運動器系 下肢の骨
8	第10章 運動器系 体幹部の筋
9	第10章 運動器系 頭頸部の筋
10	第10章 運動器系 上肢の筋
11	第10章 運動器系 下肢の筋
12	第10章 運動器系 局所解剖（頭頸部）
13	第10章 運動器系 局所解剖（体幹部）
14	第10章 運動器系 局所解剖（体肢部）
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章 循環器系（1）心血管系
18	第2章 循環器系（2）動脈，胎児循環
19	第2章 循環器系（3）静脈，リンパ系
20	第3章 呼吸器系
21	第4章 消化器系（1）基本構造，消化管
22	第4章 消化器系（2）附属腺，腹膜
23	第5章 泌尿器系
24	第6章 生殖器系
25	第7章 内分泌系
26	第8章 神経系（1）脳，脊髄
27	第8章 神経系（1）脳神経
28	第8章 神経系（2）脊髄神経
29	第9章 感覚器系（1）視覚，味覚，嗅覚
30	第9章 感覚器系（2）聴覚，平衡覚
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅴ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

2年生で学んだ病理学概論や臨床医学総論の授業の内容から、よくみられる疾患や病態などを学び、検査法などを通して、より深い理解を得ることを目的とする。

2 到達目標

症状や検査法から病態把握を行い、治療へ繋げることができる。

3 授業の方法

教科書・配付資料を使用し授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

教科書や授業で使用している資料等を予習・復習しておくこと。
授業後には必ず復習をして、知識の定着に努めてください。

7 使用教材，教具

「臨床医学総論」医歯薬出版

「病理学概論」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

患者さんへの施術を行うと、多くの知識が必要であることを実感します。これまでの学習を復習しながら人体の構造を理解し、多方面から推測する力をつけ、疾患、治療の知識を付けましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅴ ）

回数	授業内容
1	総合演習 病理学 第1章 病理学について
2	総合演習 病理学 第2章 病気について
3	総合演習 病理学 第3章 病因
4	総合演習 病理学 第4章 循環障害
5	総合演習 病理学 第5章 退行性病変
6	総合演習 病理学 第6章 進行性病変
7	総合演習 病理学 第7章 炎症
8	総合演習 病理学 第8章 腫瘍
9	総合演習 病理学 第9章 免疫異常・アレルギー
10	総合演習 病理学 第10章 先天性異常
11	総合演習 病理学 総復習①
12	総合演習 病理学 総復習②
13	総合演習 病理学 総復習③
14	総合演習 病理学 総復習④
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	総合演習 臨床医学総論 第1章 診察の概要
18	総合演習 臨床医学総論 第2章 診察の方法
19	総合演習 臨床医学総論 第3章 生命徴候／バイタルサインの診察
20	総合演習 臨床医学総論 第4章 全身の診察
21	総合演習 臨床医学総論 第5章 局所の診察
22	総合演習 臨床医学総論 第6章 神経系の診察 感覚検査法
23	総合演習 臨床医学総論 第6章 神経系の診察 脳神経系の検査
24	総合演習 臨床医学総論 第7章 運動機能検査 運動麻痺，筋肉の異常
25	総合演習 臨床医学総論 第7章 不随意運動，協調運動
26	総合演習 臨床医学総論 第7章 運動機能検査
27	総合演習 臨床医学総論 第8章 その他の診察
28	総合演習 臨床医学総論 第9章 臨床検査法
29	総合演習 臨床医学総論 第11章 治療学
30	総合演習 臨床医学総論 第12章 臨床心理
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域VI ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

施術計画に活用し、診療録に記録することを目的に、これまで学んできた東洋医学的知識を総合的に整理する。

2 到達目標

- ・患者の情報や症状から病態を推測し、必要な東洋医学的検査を列挙し、適切に実施できる。
- ・患者の情報、症状、検査結果をもとに東洋医学的な施術計画を立案できる。

3 授業の方法

症例をもとに、グループディスカッションを行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論の復習をして臨んでください。

7 使用教材、教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」医道の日本社

「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

東洋医学の理解を深めて臨床に応用できるようになりましょう。病因病機を考えると応用力が身に付き、施術の幅が広がります。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅵ ）

回数	授業内容
1	病因病機（1）症例トレーニング
2	病因病機（2）症例トレーニング
3	東洋医学暗記冊子 陰陽学説・五行学説
4	病因病機（3）症例トレーニング
5	病因病機（4）症例トレーニング
6	東洋医学暗記冊子 生理物質
7	病因病機（5）症例トレーニング
8	病因病機（6）症例トレーニング
9	東洋医学暗記冊子 蔵象
10	病因病機（7）症例トレーニング
11	病因病機（8）症例トレーニング
12	東洋医学暗記冊子 古代九鍼・古代刺法
13	病因病機（9）症例トレーニング
14	病因病機（10）症例トレーニング
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅶ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

鍼灸師として必要な分野である衛生学・公衆衛生学，医療概論，関係法規，解剖学などの理解度を認識し，不足している知識を補うことを目的とする。

2 到達目標

毎回出題する問題の各正答率が6割を超える。

3 授業の方法

国家試験問題，模擬試験問題を中心に講義・解説を行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

教科書や授業で使用している資料等を予習・復習しておくこと。

授業後には，必ず復習し知識の定着に努めてください。

7 使用教材，教具

「衛生学・公衆衛生学」、「医療概論」、「関係法規」、「解剖学」、「経絡経穴概論」

「東洋医学臨床論」 医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

・宮田 純

鍼灸師として臨床を行う際，患者と施術者双方を守るために必要な，実的な知識を確認して卒業後に備えましょう。

・伊藤 元太郎

複数の科目の知識を織り交ぜて考えることができるように学習していきましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純， 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅶ ）

回数	授業内容
1	公衆衛生学 1章「衛生学の意義」，2章「健康」
2	解剖学・経絡経穴概論 体表指標
3	公衆衛生学 3章「ライフスタイルと健康」
4	解剖学・経絡経穴概論 督脈、任脈、脊柱の解剖
5	公衆衛生学 4章「環境と健康」
6	解剖学・経絡経穴概論 手の三陰経、上肢の解剖
7	公衆衛生学 5章「産業保健」
8	解剖学・経絡経穴概論 手の三陽経、上肢の解剖
9	公衆衛生学 6章「精神保健」
10	解剖学・経絡経穴概論 上肢の徒手検査と関連経穴
11	公衆衛生学 7章「母子保健」
12	解剖学・経絡経穴概論 足の三陰経、下肢～体幹の解剖
13	公衆衛生学 8章「学校保健」
14	解剖学・経絡経穴概論 足の三陽経、下肢～体幹の解剖
15	公衆衛生学 9章「成人・高齢者保健」
16	解剖学・経絡経穴概論 下肢の徒手検査と関連経穴
17	公衆衛生学 10章「感染症とその対策」
18	解剖学・経絡経穴概論 頭頸部、顔面部の経穴と解剖
19	公衆衛生学 11章「消毒法」
20	解剖学・経絡経穴概論 奇穴の解剖
21	公衆衛生学 12章「疫学」，13章「統計」
22	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 腰下肢疾患
23	医療概論・関係法規 「現代の医療制度」
24	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 頸肩腕症候群
25	医療概論・関係法規 「患者の権利・施術者の倫理」
26	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 肩関節、膝関節疾患
27	医療概論・関係法規 「あはき法」
28	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 スポーツ障害
29	定期試験
30	定期試験
31	試験解説，復習
32	試験解説，復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅷ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

1，2年生で学んだ生理学の知識を総合的に復習し，生体の機能構造から疾患を理解し，必要な検査法を正確に行えるよう知識を深める。

2 到達目標

医療従事者として必要な病気についての基礎知識（疾病の種類・原因・形態・機序など）を学習し，人体と疾患の関係性について理解を深める。

3 授業の方法

教科書・配付資料を使用し授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・授業資料での予習・復習を行い，国家試験過去問を解くこと。

7 使用教材，教具

「生理学」医歯薬出版

「生理学インパクト」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

1，2年生で学んだ「生理学」の内容を，演習問題でよりフォーカスして授業していきます。一度学習した科目のため，しっかり復習をして，毎回の授業に備えてください。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (総合領域Ⅷ)

回数	授業内容
1	総合演習 生理学 1 章 生理学の基礎
2	総合演習 生理学 2 章 循環
3	総合演習 生理学 3 章 呼吸
4	総合演習 生理学 4 章 消化と吸収
5	総合演習 生理学 5 章 代謝
6	総合演習 生理学 6 章 体温
7	総合演習 生理学 7 章 排泄
8	総合演習 生理学 8 章 内分泌
9	総合演習 生理学 9 章 生殖・成長と老化
10	総合演習 生理学 10 章 神経
11	総合演習 生理学 11 章 筋
12	総合演習 生理学 12 章 運動
13	総合演習 生理学 13 章 感覚
14	総合演習 生理学 14 章 生体の防御系
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域IX ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

国家試験に向けた問題演習を行い、不足する学力を把握し、補うことを目的とする。

2 到達目標

問題演習を通じて苦手分野を早期に把握し、知識を補充し、国家試験に合格できる力を身につける。

3 授業の方法

- ・ 国家試験と同等の難易度である問題を180問解答する。
- ・ 問題演習の時間は国家試験と同様とする。
- ・ 問題演習後、解説レポートを作成し、面談を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート 100%

5 評価の際の特記事項

解説レポートを作成し、期日厳守で提出すること。提出をもって評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に対象科目を復習し、準備して臨むこと。また、解説レポートは後日復習をする自分の資料として役に立つように作成すること。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会

8 学生へのメッセージ

国家試験の本番を意識した問題演習は、自分の弱点探しです。自分の弱点を見つけ、一つずつ解決していきましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅸ ）

回数	授業内容
1	第1回 学力向上演習① 問題演習
2	第1回 学力向上演習② 解答
3	第1回 学力向上演習③ 解説
4	第1回 学力向上演習④ 解説レポート作成
5	第2回 学力向上演習① 問題演習
6	第2回 学力向上演習② 解答
7	第2回 学力向上演習③ 解説
8	第2回 学力向上演習④ 解説レポート作成
9	第3回 学力向上演習① 問題演習
10	第3回 学力向上演習② 解答
11	第3回 学力向上演習③ 解説
12	第3回 学力向上演習④ 解説レポート作成
13	第4回 学力向上演習① 問題演習
14	第4回 学力向上演習② 解答
15	第4回 学力向上演習③ 解説
16	第4回 学力向上演習④ 解説レポート作成
17	第5回 学力向上演習① 問題演習
18	第5回 学力向上演習② 解答
19	第5回 学力向上演習③ 解説
20	第5回 学力向上演習④ 解説レポート作成
21	第6回 学力向上演習① 問題演習
22	第6回 学力向上演習② 解答
23	第6回 学力向上演習③ 解説
24	第6回 学力向上演習④ 解説レポート作成
25	第7回 学力向上演習① 問題演習
26	第7回 学力向上演習② 解答
27	第7回 学力向上演習③ 解説
28	第7回 学力向上演習④ 解説レポート作成
29	第8回 学力向上演習① 問題演習
30	第8回 学力向上演習② 解答
31	第8回 学力向上演習③ 解説レポート作成 45分
32	第9回 学力向上演習① 問題演習
33	第9回 学力向上演習② 解答
34	第9回 学力向上演習③ 解説レポート作成 45分
35	第10回 学力向上演習① 問題演習
36	第10回 学力向上演習② 解答
37	第10回 学力向上演習③ 解説レポート作成 45分
38	第11回 学力向上演習① 問題演習
39	第11回 学力向上演習② 解説レポート作成

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・各臓器の構造を学習する。
- ・内臓の位置関係や分布血管を確認する。
- ・解剖模型や3Dアニメーションを用いて、詳細な構造を確認する。

2 到達目標

- ・脳神経、主要な脊髄神経を覚え、支配領域を説明できる。
- ・動脈の名称、主根と分枝を覚え、図示できる。
- ・内臓の位置関係を理解し、特徴を説明できる。

3 授業の方法

教科書と配付プリントをもとにして、講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書、授業資料での予習・復習を行うこと。

7 使用教材、教具

東洋療法学校協会編「解剖学」（第2版）医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

臓器について深く学習していきます。運動器からは、分野が離れますが、体表と体内の位置関係を考え、人体構造をイメージすることができるよう学習しましょう。神経や血管は、国家試験でも細かく問われますので、根気強く暗記しましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	神経系（１）中枢神経① 総論
2	神経系（２）中枢神経② 脳・脊髄
3	神経系（３）末梢神経① 脳神経
4	神経系（４）末梢神経② 脊髄神経
5	神経系（５）末梢神経③ 自律神経
6	感覚器系（１）触覚器，視覚器の構造
7	感覚器系（２）平衡聴覚器
8	感覚器系（３）味覚器，嗅覚器の構造
9	循環器系（１）血管系の構造，心臓の構造
10	循環器系（２）体循環の動脈系
11	循環器系（３）体循環の静脈系
2	循環器系（４）胎児循環
13	循環器系（５）リンパ系
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	呼吸器系（１）気道について
18	呼吸器系（２）肺の構造，胸膜と縦隔
19	消化器系（１）消化管の基本構造，口腔
20	消化器系（２）食道，胃，小腸の構造
21	消化器系（３）大腸，肝臓，胆嚢の構造
22	消化器系まとめ
23	泌尿器系（１）腎臓の構造
24	泌尿器系（２）尿管，膀胱，尿道
25	生殖器系（１）男性生殖器
26	生殖器系（２）女性生殖器
27	生殖器系（３）受精と発生
28	泌尿・生殖器系まとめ
29	内分泌系
30	後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

生理学Ⅱでは、生命現象（神経、筋、運動、感覚などのメカニズム）を通じて人体の機能について学んでいきます。

2 到達目標

人体の神経系や感覚器の機能を理解し、調和の取れた個体の生命現象を総合的にとらえることができる。

3 授業の方法

配付プリントを中心に講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します毎回の復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

「生理学」医道の日本社

「生理学インパクト」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

鍼灸治療を行っているとき「どのようなメカニズムで効果がでるのか。」と患者さんに聞かれる場面があります。生理学で人体のメカニズムを学び、そういった質問や疑問に答えられるよう、臨床に役立つ知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 生理学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	第10章 神経（1）神経系の分類 ニューロンの構造と働き
2	第10章 神経（2）神経線維の興奮伝導
3	第10章 神経（3）シナプス伝達
4	第10章 神経（4）神経伝達物質
5	第10章 神経（5）反射
6	第10章 神経（6）脊髄
7	第10章 神経（7）伝導路
8	第10章 神経（8）脳幹
9	第10章 神経（9）大脳
10	第10章 神経（10）脳脊髄液
11	第10章 神経（11）末梢神経の分類 自律神経の概要
12	第10章 神経（12）自律神経調節の特徴（二重支配，拮抗支配など）
13	第10章 神経（13）内臓の自律神経調節 自律神経反射
14	第10章 神経（14）神経系のまとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第11章 筋（1）骨格筋の構造と働き 筋の収縮の仕組み（興奮収縮連関）
18	第11章 筋（2）筋のエネルギー供給の仕組み 心筋と平滑筋について
19	第12章 運動（1）骨格筋の神経支配
20	第12章 運動（2）運動調節（伸張反射，その他の脊髄反射）
21	第12章 運動（3）運動調節（脳幹反射，除脳固縮など）
22	第12章 運動（4）錐体路系と錐体外路系 発声と言語
23	第13章 感覚（1）感覚の分類と一般的性質
24	第13章 感覚（2）体性感覚（表在感覚，深部感覚），伝導路
25	第13章 感覚（3）痛覚
26	第13章 感覚（4）特殊感覚（味覚，嗅覚）
27	第13章 感覚（5）特殊感覚（聴覚，平衡感覚）
28	第13章 感覚（6）特殊感覚（視覚）
29	第14章 生体の防御機構（1）免疫
30	第14章 生体の防御機構（2）白血球の働き
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

解剖学と生理学を統合し、人体の正常な構造と機能を結び付けて考える。

2 到達目標

・何のためにそのような形なのか、その機能を発揮するにはどういった形が適するの
かを考え、説明できるようになる

3 授業の方法

教科書，配付プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内で配付した資料の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「生理学 第3版」 医道の日本社

「解剖学 第2版」 医道の日本社

8 学生へのメッセージ

人体の機能を生理学，構造を解剖学で学んできました。機能と構造は，切っても切り離せない密接な関係性にあります。そのため，生理学の理解によって解剖学の理解が深まることもあり，その反対もあります。基礎医学の重要性を把握し，論理的に思考できる能力を培いましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖生理学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	循環の解剖生理学（１）心臓の構造と生理
2	循環の解剖生理学（２）血管の構造と生理
3	循環の解剖生理学（３）全身の血管分布
4	循環の解剖生理学（４）リンパ
5	神経の解剖生理学（１）大脳
6	神経の解剖生理学（２）間脳，脳幹
7	神経の解剖生理学（３）脳室
8	神経の解剖生理学（４）脳神経①
9	神経の解剖生理学（５）脳神経②
10	神経の解剖生理学（６）脊髄神経① 頸神経叢，腕神経叢
11	神経の解剖生理学（７）脊髄神経② 腰神経叢，仙骨神経叢
12	感覚の解剖生理学（１）体性感覚
13	感覚の解剖生理学（２）特殊感覚①
14	感覚の解剖生理学（３）特殊感覚②
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	内臓器の解剖生理学（１）呼吸①
18	内臓器の解剖生理学（２）呼吸②
19	内臓器の解剖生理学（３）消化・吸収①
20	内臓器の解剖生理学（４）消化・吸収②
21	内臓器の解剖生理学（５）消化・吸収③
22	内臓器の解剖生理学（６）泌尿器①
23	内臓器の解剖生理学（７）泌尿器②
24	内臓器の解剖生理学（８）生殖器①
25	内臓器の解剖生理学（９）生殖器②
26	内臓器の解剖生理学（１０）生殖器③
27	内臓器の解剖生理学（１１）内分泌①
28	内臓器の解剖生理学（１２）内分泌②
29	内臓器の解剖生理学（１３）内分泌③
30	内臓器の解剖生理学（１４）内分泌④
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

解剖学、生理学を発展させ、人体の運動系統を詳しく学ぶ。

2 到達目標

- ・各関節の機能や具体的な運動例を説明できる。
- ・関節可動域、MMT を説明できる。
- ・肩甲上腕リズム、膝の終末回旋運動などを説明できる。

3 授業の方法

- ・教科書、配付資料をもとに講義を行う。

4 成績評価方法・基準

試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義内容を理解するにあたっては、解剖学や生理学で学習した内容とのかかわりが深い。講義項目に該当する部分をあらかじめ復習すること。

7 使用教材、教具

「リハビリテーション医学」、「解剖学」、「生理学」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

運動学は、解剖学や生理学の知識を基に、身体の動きに関して学習していきます。
日常生活における身体の動きが、どのようにして行われているのか理解することで
評価や施術につながりますので、しっかり学習しましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動学 ）

回数	授業内容
1	総論（１）関節の構造と運動
2	総論（２）運動路と感覚路
3	姿勢と運動のコントロール（１）重心と重心線，異常姿勢
4	姿勢と運動のコントロール（２）脊髄反射，姿勢反射
5	身体各部の機能（１）脊柱
6	身体各部の機能（２）骨盤と股関節
7	身体各部の機能（３）肩関節、膝関節
8	関節可動域の測定（１）上肢，体幹
9	関節可動域の測定（２）下肢
10	徒手筋力テスト（１）上肢
11	徒手筋力テスト（２）下肢
12	歩行（１）歩行周期，歩行分析
13	歩行（２）異常歩行
14	まとめ 復習問題解答・解説
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床医学総論 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

臨床に必要な診察や検査および治療に関する医学的知識と技能について講義を中心に学習する。なお必要に応じて実技を取り入れることもある。

2 到達目標

様々な症状に対する問診・診察・検査・必要な処置の内容を理解して、患者の病態把握につなげることができる。

3 授業の方法

教科書内容の講義を中心に、理解を深める補助として画像や図説を載せた資料を用いて授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけて下さい。

7 使用教材，教具

「臨床医学総論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

8 学生へのメッセージ

私たち鍼灸師は「診断」をすることはできませんが、症状や所見から患者の状態を把握して鑑別診断を行う知識や技術は、臨床において重要です。将来、鍼灸師として活躍するためにも正しい知識を身につけて下さい。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床医学総論 ）

回数	授業内容
1	第1章 診察の概要 第2章 診察の方法（1）
2	第2章 診察の方法（2）
3	第3章 生命徴候／バイタルサインの診察（1）体温，脈拍
4	第3章 生命徴候／バイタルサインの診察（2）血圧
5	第3章 生命徴候／バイタルサインの診察（3）呼吸
6	第4章 全身の診察（1）顔貌，精神状態，言語，身体計測
7	第4章 全身の診察（2）体型・体格，栄養状態
8	第4章 全身の診察（3）姿勢と体位，歩行
9	第4章 全身の診察（4）皮膚，粘膜，皮下組織，爪の状態，リンパ節
10	第5章 局所の診察（1）頭部，顔面，眼，鼻，耳
11	第5章 局所の診察（2）口腔，頸部，胸部，乳房
12	第5章 局所の診察（3）肺・胸膜，心臓
13	第5章 局所の診察（4）腹部，背部
14	第5章 局所の診察（5）四肢
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第6章 神経系の診察（1）感覚の分類、伝導路について
18	第6章 神経系の診察（2）感覚検査法
19	第6章 神経系の診察（3）反射検査
20	第6章 神経系の診察（4）脳神経系の検査①
21	第6章 神経系の診察（5）脳神経系の検査②、髄膜刺激症状検査
22	第7章 運動機能検査（1）運動麻痺，筋肉の異常
23	第7章 運動機能検査（2）不随意運動，協調運動，起立と歩行
24	第7章 運動機能検査（3）関節可動域検査，徒手筋力検査法，日常生活動作
25	第7章 運動機能検査（4）徒手による整形外科的検査法①
26	第7章 運動機能検査（5）徒手による整形外科的検査法②
27	第8章 その他の診察 救急時，女性，小児，高齢者の診察
28	第9章 臨床検査法（1）一般検査
29	第9章 臨床検査法（2）血液生化学検査，生理学的検査および画像診断の概要
30	第11章 治療学 第12章 臨床心理
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床医学各論Ⅰ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

諸疾患について，成因，病態生理，症状，検査，治療を学習する。

2 到達目標

諸疾患の成因，病態生理，主な症状，主な検査，治療法，予後について，キーワードをあげて説明できる。

3 授業の方法

教科書，配付プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は，臨床医学各論の教科書だけではなく，解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み，疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材，教具

「臨床医学各論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

「NHKきょうの健康」NHK出版

8 学生へのメッセージ

患者さんの施術をしていると，多くの病気の知識が必要であることを実感します。病気を知ることは，いい鍼灸施術にもつながるという担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床医学各論Ⅰ ）

回数	授業内容
1	第1章 感染症（1）総論，細菌感染症
2	第1章 感染症（2）ウイルス感染症，性感染症，寄生虫感染症
3	第2章 消化管疾患（1）口腔疾患，食道疾患
4	第2章 消化管疾患（2）胃・十二指腸疾患
5	第2章 消化管疾患（3）腸疾患，腹膜疾患
6	第3章 肝・胆・膵疾患（1）肝臓疾患
7	第3章 肝・胆・膵疾患（2）胆道疾患，膵臓疾患
8	第4章 呼吸器疾患（1）感染性呼吸器疾患，閉塞性呼吸器疾患
9	第4章 呼吸器疾患（2）拘束性呼吸器疾患，その他の呼吸器疾患
10	第5章 腎・尿器疾患（1）原発性糸球体腎炎，腎不全
11	第5章 腎・尿器疾患（2）感染症，腫瘍性疾患，結石症・尿路閉塞疾患
12	第5章 腎・尿器疾患（3）前立腺疾患，その他
13	第6章 内分泌疾患（1）下垂体疾患，甲状腺疾患
14	第6章 内分泌疾患（2）副甲状腺疾患，副腎疾患，膵内分泌疾患
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第7章 代謝・栄養疾患（1）糖代謝異常，脂質代謝異常
18	第7章 代謝・栄養疾患（2）尿酸代謝異常，その他の代謝異常症
19	第8章 整形外科疾患（1）総論，関節疾患
20	第8章 整形外科疾患（2）骨代謝性疾患・骨腫瘍，
21	第8章 整形外科疾患（3）筋・腱疾患，形態異常
22	第8章 整形外科疾患（4）脊椎疾患，脊髄損傷
23	第8章 整形外科疾患（5）外傷
24	第8章 整形外科疾患（6）その他の整形外科疾患
25	第9章 循環器疾患（1）動脈疾患（および静脈疾患），血圧異常，冠動脈疾患
26	第9章 循環器疾患（2）心臓疾患（心不全，心臓弁膜症）
27	第9章 循環器疾患（3）心臓疾患（先天性心疾患，不整脈，心筋症，心筋炎）
28	第10章 血液・造血器疾患（1）赤血球疾患，白血球疾患
29	第10章 血液・造血器疾患（2）リンパ網内系疾患，出血性素因
30	循環器疾患 グループワーク（心不全，心臓弁膜症，心房細動，心室細動）
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 病理学概論 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

病気は患者にはもちろん健康人にとっても大きな関心事です。この病理学概論の授業は病気の基本的な概念を理解し、その病気の本態を認識し明らかにする手がかりになるものです。

2 到達目標

医療従事者として必要な病気についての基礎知識（疾病の種類・原因・形態・機序など）を学習し、人体と疾患の関係性について理解を深める。

3 授業の方法

教科書内容の講義を中心に、理解を深める補助として画像や図説を載せた資料を用いて授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけて下さい。

7 使用教材，教具

「病理学概論」医歯薬出版

「病気がみえる」メディックメディア

8 学生へのメッセージ

病理学とは「病気の理屈」を学ぶ教科です。理屈がわかるということは、理解できるということなので、本授業を通して病に対する興味知識を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 病理学概論 ）

回数	授業内容
1	第1章 病理学について
2	第2章 疾病の分類
3	第3章 病因（1）内因
4	第3章 病因（2）外因①
5	第3章 病因（3）外因②
6	第4章 循環障害（1）ヒトの循環系，充血・うっ血
7	第4章 循環障害（2）出血，血栓症，塞栓症
8	第4章 循環障害（3）梗塞、水腫・浮腫・脱水症
9	第4章 循環障害（4）ショック
10	第5章 退行性病変（1）萎縮
11	第5章 退行性病変（2）変性
12	第5章 退行性病変（3）生活習慣病
13	第5章 退行性病変（4）壊死と死
14	第6章 進行性病変（1）肥大と増殖
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第6章 進行性病変（2）創傷治癒
18	第7章 炎症（1）炎症の一般
19	第7章 炎症（2）炎症の分類（変質性炎）
20	第7章 炎症（3）炎症の分類
21	第8章 腫瘍（1）腫瘍の形態と構造，腫瘍細胞の特色
22	第8章 腫瘍（2）腫瘍の発生の諸段階，腫瘍の生体の及ぼす影響，発生原因
23	第8章 腫瘍（3）良性腫瘍
24	第8章 腫瘍（4）悪性腫瘍
25	第9章 免疫異常・アレルギー（1）液性免疫と細胞性免疫
26	第9章 免疫異常・アレルギー（2）アレルギーの分類
27	第9章 免疫異常・アレルギー（3）免疫不全，自己免疫異常
28	第10章 先天性異常（1）先天性異常総論
29	第10章 先天性異常（2）遺伝性疾患
30	第10章 先天性異常（3）染色体異常
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス(授業計画書)

科目名(リハビリテーション医学)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の概要

リハビリテーションの概要，障害の評価，治療法について学ぶ。

鍼灸師がリハビリテーションに携わる中で必要となる他業種との共通言語を理解する。

2 到達目標

- ・関節可動域，徒手筋力テストなどの評価法を覚える。
- ・装具，杖の目的・使用方法を覚える。
- ・I C I D HとI C Fを説明できるようになる。
- ・脊髄損傷の運動レベルと到達ADLの組合せを覚える。

3 授業の方法

資料を配付し，教科書に沿って授業を進めていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習

国家試験の過去問を解答し，配布資料，教科書を活用して解説をつくる。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「リハビリテーション医学」（第4版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

リハビリテーションというと鍼灸師の仕事と関係なさそうですが，病院などでは鍼灸師以外の職種とチームとして患者さんに関わっていきます。チームの中で鍼灸師にできること，他の職種が得意とすることを理解しておくことが，患者さんの回復に反映されます。難しい内容もありますが，積極的に学びましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(リハビリテーション医学)

回数	授業内容
1	リハビリテーションの概要
2	医学的リハビリテーションの概要
3	障害の評価
4	リハビリテーション治療
5	脳卒中のリハビリテーション
6	脊髄損傷のリハビリテーション
7	切断のリハビリテーション
8	小児のリハビリテーション
9	呼吸器のリハビリテーション
10	循環器のリハビリテーション
11	運動器のリハビリテーション① 肩関節周囲炎，変形性関節症
12	運動器のリハビリテーション② 腰痛症，関節リウマチ，骨折
13	神経疾患のリハビリテーション① パーキンソン病
14	神経疾患のリハビリテーション② 末梢神経障害
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅴ（東洋医学概論Ⅱ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

症状や所見をもとに、どのように証を立て、どのように治療するのかを学ぶ。
東洋医学における様々な治療方法について学ぶ。

2 到達目標

- ・四診で使われる用語を全て理解し、症状から弁証を立てられるようになる。
- ・各種弁証法を理解し、対応する治法を答えられるようになる。

3 授業の方法

教科書・配付プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・配付プリントでの予習・復習を行う。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

1年で習ったことを生かして、症状や所見から証を立てることができます。証に対応する治法が分かれば、どうすれば良くなるのかを考えることができます。いよいよ、患者さんを治療するために必要な理論を学ぶことになるので、しっかりと1年の復習をして授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅴ（東洋医学概論Ⅱ） ）

回数	授業内容
1	第5章 弁証（1）概要
2	第5章 弁証（2）八綱弁証
3	第5章 弁証（3）気血津液弁証 気病証・血病証・津液病証
4	第5章 弁証（4）気血津液弁証 精病証・陰陽病証・複合病証
5	第5章 弁証（5）臓腑弁証 肝胆病証
6	第5章 弁証（6）臓腑弁証 心小腸病証
7	第5章 弁証（7）臓腑弁証 脾胃病証
8	第5章 弁証（8）臓腑弁証 肺大腸病証
9	第5章 弁証（9）臓腑弁証 腎膀胱病証
10	第5章 弁証（10）臓腑弁証 複合病証
11	第5章 弁証（11）経絡弁証 十二経脈病証
12	第5章 弁証（12）経絡弁証 奇経病証・絡脈病証
13	第5章 弁証（13）六淫弁証・六経弁証
14	第5章 弁証（14）衛気営血弁証・三焦弁証
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第5章 論治（1）治則
18	第5章 論治（2）治法 治法八法・生植物質の治法
19	第5章 論治（3）治法 臓腑の治法
20	第5章 論治（3）治法 外感病の治法・症候に対する治法
21	第5章 論治（4）治療法 補瀉法
22	第5章 論治（4）治療法 要穴
23	第5章 論治（5）治療法 難経六十八難
24	第5章 論治（6）治療法 難経七十五難
25	第5章 論治（7）治療法 古代九鍼
26	第5章 論治（8）治療法 古代刺法
27	第5章 論治（9）治療法 灸法・湯液・導引
28	後期まとめ
29	相互施術フィードバック（1）
30	相互施術フィードバック（2）ペア交代
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅵ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

1年で学んだ気血津液や臓腑の働きをもとに、それぞれの相互関係や伝変と波及について学ぶ。

国家試験の過去問を使って問題演習を行う。

2 到達目標

- ・五臓の相互関係を理解し、その生理と病理を説明できるようになる。
- ・伝変と波及の過程を、各臓腑から1つずつ説明できるようになる。
- ・国家試験の出題傾向を把握し、四択問題に慣れる。

3 授業の方法

教科書・配付プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書，配付プリントでの予習・復習，国家試験過去問集での復習を行う。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

これまで、気血津液や臓腑の生理と病理について学びました。次のステップは、それぞれの相互関係について理解することです。これができると、患者さんの身体で何が起きているのかを頭の中で整理しながら、推測することができるようになります。東洋医学を使って治療するうえでとても重要なスキルなので、この授業で少しでも身につけましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	四択演習（１）陰陽学説・五行学説
2	四択演習（２）生理事質 気
3	四択演習（３）生理事質 血
4	四択演習（４）生理事質 津液・精
5	四択演習（５）蔵象 六臓
6	四択演習（６）蔵象 六腑
7	四択演習（７）蔵象 奇恒の腑
8	第２章 蔵象（１）全身の気機 五臓の関連領域の気機
9	第２章 蔵象（２）全身の気機 気機の相互関係（昇・降）
10	第２章 蔵象（３）全身の気機 気機の相互関係（出・入）
11	第２章 蔵象（４）五臓の相互関係 心脾肝・心肺脾
12	第２章 蔵象（５）五臓の相互関係 肺脾腎・脾肝腎
13	第２章 蔵象（６）五臓の相互関係 肺脾肝・心脾腎
14	第２章 蔵象（７）六腑の協調関係
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第２章 病因病機（１）伝変と波及 生理事質
18	第２章 病因病機（２）伝変と波及 臓腑（肝・心）
19	第２章 病因病機（３）伝変と波及 臓腑（脾・肺・腎）
20	四択演習（１）四診 望診・聞診
21	四択演習（２）四診 問診・切診
22	四択演習（３）弁証 内傷病の弁証
23	四択演習（４）弁証 外感病の弁証
24	四択演習（５）論治 治法・補瀉法
25	四択演習（６）論治 難経六十九難
26	五臓の相互関係（１）概要説明
27	五臓の相互関係（２）原稿作成
28	五臓の相互関係（３）媒体作成
29	五臓の相互関係（４）予演会
30	五臓の相互関係（５）発表本番
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅰ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

臨床では様々な疾患に対応しますが、そこで鍼灸治療が適不適かの判断が重要となります。本授業では実技を交えて、特に西洋医学的な観点から各疾患の鑑別を学習します。

2 到達目標

- ・鍼灸治療の適応・不適応について学び、判断することができる。
- ・主要症候の現代医学的な考え方や治療法を理解し、実践することができる。

3 授業の方法

教科書，配付プリントで授業を行う。主要疾患における現代医学的鍼灸治療を学び，治療穴の取穴・刺鍼・施灸を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内で学んだ内容について実技を取り入れることがあります。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」南江堂

8 学生へのメッセージ

1つの症候に対して，西洋医学的にも東洋医学的にも診察できる柔軟性を持つことが重要です。代表的な疾患に関しては実技を行い，治療院で患者が来院したときに治療ができるような技術と知識を習得してほしいと思います。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 現代医学的治療原則について
2	主要症候に対する鍼灸療法 頭痛（現代医学的考え方）
3	主要症候に対する鍼灸療法 頭痛に対する治療
4	主要症候に対する鍼灸療法 顔面痛（現代医学的考え方）
5	主要症候に対する鍼灸療法 顔面痛に対する治療
6	主要症候に対する鍼灸療法 顔面麻痺（現代医学的考え方）
7	主要症候に対する鍼灸療法 顔面麻痺に対する治療
8	主要症候に対する鍼灸療法 歯痛（現代医学的考え方）
9	主要症候に対する鍼灸療法 歯痛に対する治療
10	主要症候に対する鍼灸療法 眼精疲労（現代医学的考え方）
11	主要症候に対する鍼灸療法 眼精疲労に対する治療
12	主要症候に対する鍼灸療法 鼻汁，鼻閉（現代医学的考え方）
13	主要症候に対する鍼灸療法 鼻汁，鼻閉に対する治療
14	主要症候に対する鍼灸療法 脱毛症（現代医学的考え方）
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	主要症候に対する鍼灸療法 脱毛症に対する治療
18	主要症候に対する鍼灸療法 めまい，耳鳴り，難聴（現代医学的考え方）
19	主要症候に対する鍼灸療法 めまい，耳鳴り，難聴に対する治療
20	主要症候に対する鍼灸療法 咳嗽（現代医学的考え方）
21	主要症候に対する鍼灸療法 喘息（現代医学的考え方）
22	主要症候に対する鍼灸療法 咳嗽と喘息に対する治療
23	主要症候に対する鍼灸療法 胸痛（現代医学的考え方）
24	主要症候に対する鍼灸療法 胸痛に対する治療
25	主要症候に対する鍼灸療法 悪心と嘔吐，腹痛，便秘，下痢（現代医学的考え方）
26	主要症候に対する鍼灸療法 悪心と嘔吐，腹痛，便秘，下痢に対する治療
27	主要症候に対する鍼灸療法 気分障害，認知症（現代医学的考え方）
28	主要症候に対する鍼灸療法 気分障害，認知症に対する治療
29	主要症候に対する鍼灸療法 月経異常，不妊症（現代医学的考え方）
30	主要症候に対する鍼灸療法 月経異常，不妊症に対する治療
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・運動器疾患の発生機序を理解し、疾患に対する鍼灸治療の方法を学ぶ。
- ・疾患の特徴を理解し、鑑別方法を学ぶ。
- ・診察方法としてROMテスト、MMT、神経学的検査や徒手検査を学ぶ。

2 到達目標

- ・疾患の発生機序を説明できる。
- ・疾患を評価する徒手検査を理解し、実施できる。
- ・安全かつ科学的根拠に基づいた鍼灸治療を実施できる。

3 授業の方法

座学での講義と実技での治療法の学習。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- ・教科書、配付資料を読み返し復習を行うこと。解剖学や経穴の復習も行うこと。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」南江堂

8 学生へのメッセージ

適切な評価ができれば、施術ができて効果を判定できます。評価方法が多いので覚えることに苦労しますが、発生機序や障害部位の解剖を理解することで、検査法が覚えやすくなります。あとは実際に動きながら覚えましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎， 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	総論 鍼灸臨床、治療穴とその応用、手技と手法
2	第2章 各論 第1節 疼痛 頸肩腕痛
3	第2章 各論 第1節 疼痛 上肢痛
4	第2章 各論 第1節 疼痛 肩関節痛
5	第2章 各論 第1節 疼痛 腰下肢痛
6	第2章 各論 第1節 疼痛 腰痛
7	第2章 各論 第1節 疼痛 下肢痛
8	第2章 各論 第1節 疼痛 膝痛
9	第2章 各論 第4節 その他の症候 歩行異常
10	第2章 各論 第1節 疼痛 顔面痛
11	第2章 各論 第1節 疼痛 関節痛
12	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 排尿障害
13	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 ED（勃起障害）
14	前期復習
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第1章 各論 第1節 疼痛 頭痛
18	第1章 各論 第1節 疼痛 胸痛
19	第1章 各論 第1節 疼痛 腹痛
20	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 眼精疲労
21	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 気分障害（うつ状態）
22	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 めまい
23	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 悪心・嘔吐
24	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 便秘・下痢
25	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 歯痛
26	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 咳嗽・喀痰・呼吸困難
27	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 鼻閉・鼻汁
28	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 脱毛症
29	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 耳鳴り・難聴
30	第2章 各論 第4節 その他の症候 顔面麻痺
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

授業で学習した四診を，学生ペアで実践する。
授業で学習した弁証論治を，模擬患者で実践する。

2 到達目標

- ・ 四診の意義と手法を理解し，正しく所見をとり，記録することができる。
- ・ 四診で得た所見から証を立て，対応する治法を導いて配穴を定め，安全に刺鍼と施灸ができるようになる。

3 授業の方法

全体への説明後，教員によるデモンストレーションを見学し，学生ペアで実技を行う。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や配付プリントを，自宅での復習教材とし活用する。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

東洋医学的な施術をするためには，四診の習得が必須です。四診から弁証論治までの流れを実践することで，臨床のイメージも湧きますし，理論の復習にもなります。教科書と，授業で配布したプリントを熟読しながら実習に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう実技Ⅳ ）

回数	授業内容
1	四診（１）オリエンテーション
2	四診（２）望診 舌診
3	四診（３）望診 部分望診(面色・爪・体表)
4	四診（４）まとめ 望診→証立て
5	四診（５）切診 切経
6	四診（６）切診 切穴（背侯診）
7	四診（７）切診 切穴（募穴診）
8	四診（８）まとめ 切経→切穴
9	四診（９）切診 腹診
10	四診（１０）切診 脈診（脈状診）
11	四診（１１）切診 脈診（比較脈診）
12	四診（１２）まとめ 腹診→脈診→証立て
13	四診（１３）問診 十問歌・五臓に関する問診
14	四診（１４）まとめ 問診→望診→切診→証立て
15	実技試験
16	弁証論治（１）オリエンテーション
17	弁証論治（２）排便異常
18	弁証論治（３）排便異常 施術
19	弁証論治（４）冷え・ほてり
20	弁証論治（５）冷え・ほてり 施術
21	弁証論治（６）食欲異常
22	弁証論治（７）食欲異常 施術
23	弁証論治（８）痺れ・痛み
24	弁証論治（９）痺れ・痛み 施術
25	弁証論治（１０）感冒
26	弁証論治（１１）感冒 施術
27	弁証論治（１２）甲状腺疾患
28	弁証論治（１３）甲状腺疾患 施術
29	中医学の治療法（１）中国鍼・撚鍼法の紹介，囲刺・排刺の紹介
30	中医学の治療法（２）補瀉法の紹介，吸角・経絡パルスの紹介
31	実技試験
32	試験解説，フィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅴ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

前期 諸疾患について学び，現代的鍼灸施術の適・不適を見極める力をつける。

後期 鍼灸施術を行うために必要な医療面接技法を習得する。

2 到達目標

- ・ 諸疾患の現代的な鍼灸施術の目的を説明したうえで，安全に施術ができる。
- ・ 適切な医療面接および診療録の記載ができる。

3 授業の方法

前期：教科書を使用し講義を行い，疾患に対する施術の実技を行う。

後期：パワーポイント，配付資料により講義を行い，医療面接と相互治療を行う。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

施術に必要な検査・経絡経穴の予習，後期は授業後に診療録を作成・提出する。

7 使用教材，教具

「臨床医学各論」「臨床医学総論」（医歯薬出版）

「東洋医学臨床論はりきゅう編」（南江堂），「新版経絡経穴概論」（医道の日本社）

8 学生へのメッセージ

1年次に習得した知識・技術をもとに，効果的で安全な鍼灸施術を行えるようになっていきましょう。担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう実技Ⅴ ）

回数	授業内容
1	現代学的アプローチ（１） 動悸・息切れ
2	現代学的アプローチ（２） 血圧異常
3	現代学的アプローチ（３） 睡眠障害
4	現代学的アプローチ（４） 食欲不振
5	現代学的アプローチ（５） 肥満
6	現代学的アプローチ（６） やせ（るい瘦）
7	現代学的アプローチ（７） 疲労と倦怠感
8	現代学的アプローチ（８） 発熱
9	現代学的アプローチ（９） 冷え
10	現代学的アプローチ（１０） のぼせ
11	現代学的アプローチ（１１） 浮腫
12	現代学的アプローチ（１２） 掻痒感（痒み），肌荒れ，発疹
13	現代学的アプローチ（１３） 口渇
14	現代学的アプローチ（１４） 出血傾向
15	実技試験
16	試験解説，フィードバック
17	現代学的アプローチ（１５） 小児神経症（疳の虫）
18	現代学的アプローチ（１６） 夜尿症
19	医療面接とは，DVD
20	医療面接の流れ，コミュニケーションの実際
21	質問法，面接技法
22	面接で聞く内容（７項目，十問診），模擬患者による医療面接（ワーク）
23	診療録（１）現病歴を書いてみよう（ワーク）
24	診療録（２）現病歴を書いて必要な検査を考えてみよう（ワーク）
25	診療録（３）検査法，POMR，SOAP
26	相互実習（１）（初診患者）
27	相互実習（２）（初診患者）ペア交代
28	診療録返却，フィードバック
29	相互実習（３）（再診患者）
30	相互実習（４）（再診患者）ペア交代
31	実技試験
32	試験解説，フィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅵ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・体表解剖を学び、正確な触察法を習得する。
- ・低周波鍼通電療法を学び、運動器への刺鍼技術の向上を目指す。

2 到達目標

- ・骨、筋、血管、末梢神経の走行を把握し、正確な触察ができる。
- ・適切な患部の露出、必要なタオルワーク、安全な刺鍼・通電ができる。
- ・目的の筋への通電、施術前後の評価ができる。

3 授業の方法

- ・担当教員は講義とデモンストレーションを行う。
- ・実技に関する留意点については個別指導により細やかな指導を行っていく。
- ・実技後は必ず、担当教員のチェックを受け自身の到達度を確認する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付するプリントを自宅での復習教材とし活用すること。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「解剖学」（第2版）医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

正確な触診技術あつての低周波鍼通電療法です。授業だけでなく日々の生活から身体に触れ、「感じる力」を鍛錬しましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	鍼通電療法総論
2	三角筋の触診，筋パルス
3	棘上筋・棘下筋の触診，筋パルス
4	小円筋の触診，筋パルス
5	僧帽筋の触診，筋パルス
6	菱形筋の触診，筋パルス
7	広背筋の触診，筋パルス
8	円回内筋の触診，筋パルス
9	腕橈骨筋の触診，筋パルス
10	長・短橈側手根伸筋の触診，筋パルス
11	長母指伸筋の触診，筋パルス
12	肩甲挙筋の触診，筋パルス
13	試験前実技練習①
14	試験前実技練習②
15	実技試験
16	評価用紙返却および解説
17	前脛骨筋の触診，筋パルス
18	長・短腓骨筋の触診，筋パルス
19	下腿三頭筋の触診，筋パルス
20	ハムストリングスの触診，筋パルス
21	大腿四頭筋の触診，筋パルス
22	中殿筋の触診，筋パルス
23	大殿筋の触診，筋パルス
24	大腿筋膜張筋の触診，筋パルス
25	梨状筋の触診，筋パルス
26	脊柱起立筋の触診，筋パルス
27	腰方形筋の触診，筋パルス
28	神経パルスについて（坐骨神経，大腿神経）
29	試験前実技練習①
30	試験前実技練習②
31	実技試験
32	評価用紙返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を体験する。また経絡や経穴の取穴や施術方法を確認していく。

2 到達目標

- ・態度・習慣 施術所の診療形態を理解し，臨床スタッフとしての行動ができる。
- ・情報収集・記録 見学したことの理解を深めるために自ら調べ，記録できる。
- ・施術へのアプローチ 安全性・清潔操作に配慮できる。使用経穴や部位を把握できる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の継続評価，日誌，見学記録，実習参加シートをもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，自ら調べ，質問すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」（医道の日本社）

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」山下仁 監修・解説（医道の日本社）

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅱ ）

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習（1）
2	施術所の運営および施術の体験・練習（1）
3	施術所の運営および施術の体験・練習（1） 4 5 分
4	施術所の運営および施術の体験・練習（2）
5	施術所の運営および施術の体験・練習（2）
6	施術所の運営および施術の体験・練習（2） 4 5 分
7	施術所の運営および施術の体験・練習（3）
8	施術所の運営および施術の体験・練習（3）
9	施術所の運営および施術の体験・練習（3） 4 5 分
10	施術所の運営および施術の体験・練習（4）
11	施術所の運営および施術の体験・練習（4）
12	施術所の運営および施術の体験・練習（4） 4 5 分
13	施術所の運営および施術の体験・練習（5）
14	施術所の運営および施術の体験・練習（5）
15	施術所の運営および施術の体験・練習（5） 4 5 分
16	施術所の運営および施術の体験・練習（6）
17	施術所の運営および施術の体験・練習（6）
18	施術所の運営および施術の体験・練習（6） 4 5 分
19	施術所の運営および施術の体験・練習（7）
20	施術所の運営および施術の体験・練習（7）
21	施術所の運営および施術の体験・練習（7） 4 5 分
22	施術所の運営および施術の体験・練習（8）
23	施術所の運営および施術の体験・練習（8）
24	施術所の運営および施術の体験・練習（8） 4 5 分
25	施術所の運営および施術の体験・練習（9）
26	施術所の運営および施術の体験・練習（9）
27	施術所の運営および施術の体験・練習（9） 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

臨床実習施設で、基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を見学し，一部を模倣・実践する。

2 到達目標

- ・態度・習慣 患者に対して適切な対応ができる。
- ・情報収集・記録 医療面接を実施し，SOAP形式で記録できる。
- ・施術へのアプローチ 指導者が指示した経穴および部位を触知できる。

3 授業の方法

実際に運営されている施術所で，体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の継続評価，日誌，見学記録，実習参加シートをもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，自ら調べ，質問すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社）

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

将来の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨みましょう。また，患者や他職種の方々とも積極的に関わり，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅲ ）

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（1）
2	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（1）
3	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（1） 4 5 分
4	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（2）
5	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（2）
6	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（2） 4 5 分
7	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（3）
8	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（3）
9	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（3） 4 5 分
10	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（4）
11	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（4）
12	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（4） 4 5 分
13	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（5）
14	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（5）
15	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（5） 4 5 分
16	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（6）
17	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（6）
18	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（6） 4 5 分
19	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（7）
20	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（7）
21	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（7） 4 5 分
22	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（8）
23	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（8）
24	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（8） 4 5 分
25	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（9）
26	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（9）
27	施術所の運営および施術の見学・体験・練習（9） 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅱ（病態生理学） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

鍼灸師にとって、体のしくみや働きを知り、異常がなぜ起こってどのような症状を引き起こしながら病気になっていくのかを知ることには大変重要である。病態生理学は、病気が引き起こされる機序や経過を理解するための学問であり、鍼灸治療で効果を出せるかどうかの鑑別判断をするために欠かせない知識である。
担当教員の実務経験を基に臨床に必要な病態生理を学んでいく。

2 到達目標

鍼灸臨床にとって必要な主要症候の病態生理を理解し、鍼灸治療の適否を判断できる。

3 授業の方法

教科書、配付プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

レポート 100%（後期の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は関係科目の教科書や配付資料もよく読み、病態生理のイメージができるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「臨床医学各論」「解剖学」「生理学」「病理学」「臨床医学総論」（医歯薬出版株式会社）

8 学生へのメッセージ

病態生理の理解には、関係科目の解剖学や生理学、病理学、臨床医学各論、臨床医学総論の知識が必要です。復習しながら理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅱ（病態生理学） ）

回数	授業内容
1	授業説明
2	感染症の病態生理（１）成因と感染経路，炎症の病態生理
3	感染症の病態生理（２）細菌感染症
4	感染症の病態生理（３）ウイルス感染症
5	感染症の病態生理（４）食中毒，悪心，嘔吐，下痢
6	感染症の病態生理（５）性感染症
7	感染症の病態生理（６）まとめ
8	消化管疾患の病態生理（１）消化管とは（口腔から肛門まで）
9	消化管疾患の病態生理（２）症状（嘔吐，腹痛，吐血，下血，下痢，便秘）
10	消化管疾患の病態生理（３）口腔疾患，食道，胃・十二指腸疾患
11	消化管疾患の病態生理（４）大腸疾患，腹膜疾患
12	消化管疾患の病態生理（５）腹膜疾患
13	肝疾患の病態生理（１）肝機能障害と症状
14	肝疾患の病態生理（２）肝炎，肝硬変，肝癌，脂肪肝の症状と機序
15	胆道疾患の病態生理（１）胆道の機能障害と症状（黄疸）
16	胆道疾患の病態生理（２）胆石，胆嚢炎，胆嚢癌，総胆管癌の症状と機序
17	膵臓疾患の病態生理（１）膵臓の機能障害と症状
18	呼吸器疾患の病態生理（１）呼吸器の構造と機能
19	呼吸器疾患の病態生理（２）感染性呼吸器疾患
20	呼吸器疾患の病態生理（３）閉塞性呼吸器疾患
21	呼吸器疾患の病態生理（４）拘束性呼吸器疾患
22	腎・尿器疾患の病態生理（１）腎・尿器の構造と機能，尿検査，血液生化学検査
23	腎・尿器疾患の病態生理（２）脱水，浮腫，カリウム代謝異常
24	腎・尿器疾患の病態生理（３）感染症，腎・尿管結石症と痛み
25	腎・尿器疾患の病態生理（４）前立腺肥大症，前立腺癌
26	内分泌疾患の病態生理（１）内分泌の解剖整理
27	内分泌疾患の病態生理（２）下垂体疾患，甲状腺疾患
28	内分泌疾患の病態生理（３）副腎疾患，副甲状腺疾患
29	前期まとめ（１）感染症，消化管疾患
30	前期まとめ（２）肝胆膵疾患，呼吸器疾患
31	前期まとめ（３）腎・尿器疾患
32	前期まとめ（４）内分泌疾患
33	代謝・栄養疾患の病態生理（１）糖代謝異常
34	代謝・栄養疾患の病態生理（２）脂質代謝異常
35	代謝・栄養疾患の病態生理（３）尿酸代謝異常

36	代謝・栄養疾患の病態生理（４）その他の代謝異常
37	整形外科疾患の病態生理（１）関節炎
38	整形外科疾患の病態生理（２）変形性関節症
39	整形外科疾患の病態生理（３）骨代謝性疾患
40	整形外科疾患の病態生理（４）骨腫瘍，筋・腱疾患
41	整形外科疾患の病態生理（５）形態異常
42	整形外科疾患の病態生理（６）脊椎疾患（ヘルニア，分離・すべり症）
43	整形外科疾患の病態生理（７）脊椎疾患（変形性脊椎症，脊柱管狭窄症）
44	整形外科疾患の病態生理（８）脊椎疾患（腰痛，頸椎捻挫）
45	整形外科疾患の病態生理（９）脊髄損傷
46	整形外科疾患の病態生理（１０）骨折，脱臼，捻挫
47	整形外科疾患の病態生理（１１）スポーツ外傷・傷害
48	整形外科疾患の病態生理（１２）胸郭出口症候群，頸肩腕症候群
49	循環器疾患の病態生理（１）動脈および静脈疾患
50	循環器疾患の病態生理（２）血圧異常
51	循環器疾患の病態生理（３）冠動脈疾患
52	循環器疾患の病態生理（４）心不全
53	循環器疾患の病態生理（５）心臓弁膜症
54	循環器疾患の病態生理（６）先天性心疾患
55	循環器疾患の病態生理（７）不整脈
56	循環器疾患の病態生理（８）心筋症
57	血液・造血器疾患の病態生理（１）貧血
58	血液・造血器疾患の病態生理（２）白血病
59	血液・造血器疾患の病態生理（３）悪性リンパ腫
60	血液・造血器疾患の病態生理（４）出血性素因
61	後期まとめ（１）代謝・栄養疾患
62	後期まとめ（２）整形外科疾患
63	後期まとめ（３）循環器疾患
64	後期まとめ（４）血液・造血器疾患

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学Ⅰ（保健体育） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

これまでの学校体育では、経験できなかった内容で、自分の身体を思い通りに動かすことを目標とした神経系のトレーニングを中心に学習する。

2 到達目標

单元ごとの目標をクリアする。

3 授業の方法

実技中心で授業を展開します。

4 成績評価方法・基準

実技試験 40% 小テスト 40% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には、毎回進んで参加する積極性、協力し合う態度などを含む。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験に向けて練習を必ずしてください。

7 使用教材・教具

特になし。

8 学生へのメッセージ

年齢に関係なく取り組める神経系のトレーニングを体験し、それぞれの現場で活用するとともに、運動の大切さ・楽しさを学んでほしい。

9 教員氏名（ 井手 かおり ）

所 属（ Sports Club Olympier ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(スポーツ健康学Ⅰ (保健体育))

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	実技試験説明, 練習
3	COT (ボールⅠ) 小テスト説明
4	COT(ボールⅡ)
5	COT(ボールⅢ)
6	COT(ボールⅣ)
7	COT(ボールⅤ)
8	COT(ボール) 小テスト
9	実技試験Ⅰ 中間チェック
10	COT (ロープ) 小テスト説明
11	COT (ロープⅠ)
12	COT(ロープⅡ)
13	COT(ロープ) 小テスト
14	実技試験Ⅰ 練習
15	定期試験
16	まとめ
17	実技試験Ⅱ 説明
18	実技試験実力チェック
19	COT (用具なしⅠ) 小テスト説明
20	COT(用具なしⅡ)
21	COT(用具なしⅢ)
22	COT(用具なしⅣ)
23	COT(用具なしⅤ)
24	COT(用具なし) 小テスト
25	実技試験Ⅱ 中間チェック
26	COT (フープⅠ) 小テスト説明
27	COT(フープⅡ)
28	COT(フープⅢ)
29	COT(フープ) 小テスト
30	実技試験Ⅱ 練習
31	定期試験
32	まとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学Ⅱ（生物学） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学や生理学や病理学を理解する上で必要な生物の細胞において、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基本的な用語を理解し、解剖学・生物学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指す。

3 授業の方法

毎回プリントを配付し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

前期では試験を90%、平常点を10%として成績を出し、後期でも試験90%、平常点10%で評価します。最終的に、前期と後期の成績を平均して60%以上であれば合格とします。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数が無くなり、平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、忘れないように復習を行ってください。

7 使用教材、教具

「サイエンスビュー 生物総合資料」実教出版

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきてパニックになるかもしれませんが、重要な言葉は何度でも出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずです。前期は大変でも後期には必ず楽になります。諦めないことが大切です。夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名（ 松尾 泰博 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (スポーツ健康学Ⅱ (生物学))

回数	授業内容
1	生物学の歩み 生命の誕生と細胞の誕生
2	細胞成分, タンパク質, 糖質, 脂質
3	細胞の構造, 細胞小器官
4	細胞の構造, 細胞質基質, 細胞骨格, 細胞外基質
5	細胞膜, 浸透圧
6	細胞膜, 受動輸送, 能動輸送
7	エネルギーの獲得, 発酵, 嫌気呼吸
8	エネルギーの獲得, 好気呼吸
9	細胞分裂, 体細胞分裂
10	細胞分裂, 減数分裂
11	ヒトの生殖と受精
12	遺伝, メンデルの法則
13	遺伝, 染色体と性
14	いろいろな遺伝
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習
17	DNAの発見と構造
18	DNAの複製と修復, PCR
19	RNAの種類と働き
20	タンパク質の合成
21	突然変異, 遺伝子変異とがん
22	バイオテクノロジー, 遺伝子組み換え, ゲノム編集
23	バイオテクノロジー, 遺伝子治療, 再生医療
24	バイオテクノロジー, ES細胞, iPS細胞, 幹細胞
25	生体防御システム
26	非特異的生体防御システムと炎症
27	特異的生体防御システムと液性免疫
28	特異的生体防御システムと細胞性免疫
29	アレルギー
30	自己免疫と疾患
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ栄養学Ⅲ（栄養学） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

本科目では、健康増進やスポーツ活動を支える栄養について基本的な知識を習得し、人々の健康管理にかかわる専門職として、個々人の身体・栄養状況を把握できる能力を身につける。また、各種身体活動中のエネルギー消費や栄養素の消化・吸収・代謝の特性を理解し、ウェイトコントロール・期分け・運動時の水分補給などの意義と実際について理解を深め、コンディション維持およびトレーニング効果を高めるための栄養摂取や管理のあり方を学ぶ。

2 到達目標

運動と栄養のバランスを考え、自分自身で適切な栄養補給・食事を整えることができる。競技特性や状況に応じた栄養管理をスポーツ栄養マネジメントに沿って考えることができるようになる。

3 授業の方法

スライド、スライド印刷資料を配付

4 成績評価方法・基準

定期試験 80％、授業態度 20％

5 評価の際の特記事項

なし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎授業後に出題する課題を中心に復習をすること。

7 使用教材，教具

教科書は使用しない。参考図書「イラスト スポーツ・運動と栄養」東京教学社（2020）

8 学生へのメッセージ

本講義では、スポーツ・運動と栄養に関する基本的な内容を学びますが、健康増進やスポーツパフォーマンス向上に対する誤った情報に惑わされることのないよう正しい知識を習得してもらいたいと思います。

9 教員氏名（ 小田 和人 ）

所 属（ 長崎国際大学 健康管理学部健康栄養学科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ スポーツ栄養学Ⅲ（栄養学） ）

回数	授業内容
1	ガイダンス（健康増進と食生活，競技選手の適切な栄養補給の必要性と考え方）
2	エネルギーバランス・身体組成
3	栄養学の基礎知識①（糖質，脂質，たんぱく質，食物繊維）
4	栄養学の基礎知識②（ビタミン，ミネラル）
5	栄養素の消化・吸収・代謝
6	バランスのとれた食事の基本，スポーツ栄養におけるガイドライン
7	エネルギー供給系および種目別にみた栄養摂取
8	運動時の水分補給
9	期分け別（試合・遠征・オフ期）の食事管理
10	身体づくり，ウエイトコントロールのための食事
11	アスリートに多く見られる栄養障害とその対策① 貧血・骨障害
12	アスリートに多く見られる栄養障害とその対策② 世代や性別による注意点
13	サプリメントとドーピングについて
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学Ⅳ （コミュニケーション） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

臨床心理学に関わる知識と理論を学習し、より良い健康的な心の状態を知り、診断や治療の場面でのコミュニケーション能力の向上をはかる。

2 到達目標

人格の成り立ちや心の問題を考えることで、そのメカニズムを理解し、会話力を使った具体的援助の理論とスキルを身につける。

3 授業の方法

診断や治療における会話場面に必要な基礎理論とスキルを板書に具体的にまとめながら説明していくので、各自こころの動きを感じ理解しながら、ノートに重点を整理し、後で復習できるような参考書的なノート作成を心掛けてほしい。

4 成績評価方法・基準

定期試験 50%，レポート・ノート 50%

5 評価の際の特記事項

ノートが、実際の場面に利用できるように分かりやすくきちんと整理され、これからの心理的問題に対応できるよう参考書的にまとめられているかを評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

下記の参考書などを読み、ノートにまとめた“心に関する理論”を実際の生活場面で使っていく事が、コミュニケーションスキルを身につける早道になります。

7 使用教材，教具

参考図書「こころとかかわる臨床心理（基礎・実際・方法）」第2版

著者 川瀬正裕，松本真理子，松本英夫（ナカニシヤ出版）

8 学生へのメッセージ

自分自身の心の状態を意識し、内なる人間性を感じて、授業内容を理解してほしい。

9 教員氏名（ 苑田 俊明 ）

所 属（ 長崎県・佐賀県教育委員会，長崎県臨床心理士会 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ スポーツ健康学Ⅳ（コミュニケーション） ）

回数	授業内容
1	心は、どのようになっているのか・自己理解について
2	心の問題への援助と適応について
3	人間を理解するための理論（人格理論と発達理論）
4	①フロイトの精神分析理論と発達理論的見地
5	②ユングの分析的心理学
6	③ロジャーズの自己理論
7	④マラーとウェニコットの発達理論 ⑤エリクソンの心理社会的発達理論
8	心の問題を抱えた対象を理解する心理アセスメント
9	①情報の収集整理について ②面接のポイント（会話力） ③心理検査
10	心理援助の方法について（いろいろな心理療法）
11	①診断的分類 ②病態水準からの理解
12	事例により心理援助の実際を知る
13	①発達障害 ②不登校 ③神経症 ④心身症 ⑤気分障害など
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学Ⅴ（体力学） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ストレッチ
- 筋力トレーニング
- スクエアステップ

2 到達目標

单元ごとの目標をクリアする。

3 授業の方法

実技中心。

4 成績評価方法・基準

実技試験 40% 小テスト 40% 授業態度他 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には、毎回進んで参加する積極性、協力し合う態度などを含む。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

ストレッチ・筋力トレーニングの実践。

7 使用教材・教具

なし

8 学生へのメッセージ

健康の保持増進のためのストレッチや筋力トレーニングの方法を理解し、実践してほしい。

9 教員氏名（ 井手 かおり ）

所 属（ Sports Club Olympier ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(スポーツ健康学Ⅴ (体力学))

回数	授業内容
1	実技試験説明、可動域・筋力チェック
2	4スタンス
3	小テスト説明・筋力トレⅠ・ストレッチⅠ
4	筋力トレーニングⅡ・ストレッチⅡ
5	筋力トレーニングⅢ・ストレッチⅢ
6	筋力トレーニングⅣ・ストレッチⅣ
7	筋力トレーニングⅤ・ストレッチⅤ
8	筋力トレーニングⅥ
9	ストレッチⅥ
10	筋力トレーニングⅦ
11	ストレッチⅦ
12	肩甲骨・股関節
13	PNF ストレッチ
14	可動域・筋力チェック
15	定期試験
16	まとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・骨と筋の構造について配付資料，解剖模型，3Dアニメーションを用いて学ぶ。
- ・骨の特徴，筋の起始停止・支配神経・作用について学ぶ。

2 到達目標

- ・解剖学用語に関して正しく読み書きができる。
- ・骨の名称を全て覚え，特徴を説明できる。
- ・主要な筋の起始停止・支配神経・作用を説明できる。

3 授業の方法

教科書と配付プリントを使用して，講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書，授業資料での予習・復習を行うこと。調べて不明な点は質問に来ること。

7 使用教材，教具

「解剖学第2版」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

自分のからだが，どのような構造なのか興味を持つことから始めましょう。

探求心を持って，取り組むことで言葉も自然と覚えられるはずです。

分からないことは，絵と文章で調べることを心がけてください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (解剖学 I)

回数	授業内容
1	人体の構成 (1) 細胞
2	人体の構成 (2) 組織
3	骨格系 総論 身体構造の全体像
4	脊柱の構造
5	胸郭の構造
6	上肢骨 (1) 上肢帯 (鎖骨, 肩甲骨)
7	上肢骨 (2) 自由上肢① (上腕骨, 橈骨, 尺骨)
8	上肢骨 (3) 自由上肢② (手根骨)
9	下肢骨 (1) 下肢帯 (寛骨)
10	下肢骨 (2) 自由下肢① (大腿骨, 膝蓋骨, 脛骨, 腓骨)
11	下肢骨 (3) 自由下肢② (足根骨)
12	頭蓋骨 (1) 脳頭蓋
13	頭蓋骨 (2) 顔面頭蓋
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	筋系 総論
18	体幹の筋 (1) 胸部, 腹部
19	体幹の筋 (2) 背部
20	上肢の筋 (1) 上肢帯, 上腕屈筋・伸筋
21	上肢の筋 (2) 前腕屈筋
22	上肢の筋 (3) 前腕伸筋
23	下肢の筋 (1) 下肢帯
24	下肢の筋 (2) 大腿伸筋・屈筋・内転筋
25	下肢の筋 (3) 下腿伸筋・屈筋・腓骨筋群
26	頭頸部の筋 (1) 表情筋
27	頭頸部の筋 (2) 咀嚼筋
28	後期まとめ (1) 上半身の筋
29	後期まとめ (2) 下半身の筋
30	後期まとめ (3) 頭頸部の筋
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学 I ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

本授業では、生命現象（呼吸や循環などのメカニズム）を通じて人体の機能について学んでいきます。

2 到達目標

人体の細胞や器官の機能を理解し、調和の取れた個体の生命現象を総合的にとらえることができる。

3 授業の方法

配付プリントを中心に講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

「生理学」医歯薬出版

「生理学インパクト」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

鍼灸治療を行っているとき「どのようなメカニズムで効果がでるのか。」と患者さんに聞かれる場面があります。生理学で人体のメカニズムを学び、そういった質問や疑問に答えられるよう、臨床に役立つ知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (生理学 I)

回数	授業内容
1	第1章 生理学の基礎 (1) 生理機能の特徴, 細胞の構造と機能
2	第1章 生理学の基礎 (2) 解糖系と内呼吸, 体液の組成と働き 物質の移動
3	第2章 循環 血液編 (1) 血液の組成
4	第2章 循環 血液編 (2) 止血の機序 (一次止血, 血液凝固, 線溶系) 血液型
5	第2章 循環 循環編 (1) 心臓血管系 心臓の構造と働き
6	第2章 循環 循環編 (2) 血液循環
7	第2章 循環 循環編 (3) 循環調節 リンパ系
8	第3章 呼吸 (1) 呼吸器について
9	第3章 呼吸 (2) 換気とガス交換について 呼吸運動
10	第4章 消化と吸収 (1) 消化と吸収 消化管の運動
11	第4章 消化と吸収 (2) 消化液
12	第4章 消化と吸収 (3) 吸収 肝臓の働き 摂食の調節
13	第4章 消化と吸収 (4) 消化管ホルモンについて
14	第5章 代謝 (1) 栄養素について 代謝について
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第5章 代謝 (2) 各栄養素の働きと代謝
18	第6章 体温 (1) 体温調節
19	第6章 体温 (2) 体熱の産生と放散 発汗とその調節
20	第7章 排泄 (1) 腎臓の働き
21	第7章 排泄 (2) 腎循環 尿生成
22	第7章 排泄 (3) 腎臓と体液の調節 畜尿と排尿
23	第8章 内分泌 (1) ホルモンの特徴 視床下部と下垂体
24	第8章 内分泌 (2) 視床下部ホルモン, 下垂体ホルモン, 甲状腺ホルモン
25	第8章 内分泌 (3) 副甲状腺ホルモン, 膵臓ホルモン
26	第8章 内分泌 (4) 副腎のホルモン
27	第8章 内分泌 (5) 性ホルモン, その他のホルモン
28	第9章 生殖・成長と老化 (1) 生殖
29	第9章 生殖・成長と老化 (2) 妊娠 出産
30	第9章 生殖・成長と老化 (3) 成長 老化
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学 I ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

人体を形作っている各組織がどのように働いているのか、またその組織の働きで人体にどのような影響を及ぼしているのかを学び、人間に起こる生理的な反応を理解する。

2 到達目標

解剖学と生理学を統合して学習し、人体の正常な構造と機能を結び付けて考えることができる。

3 授業の方法

配付資料，プロジェクターによる視聴覚教材の使用。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や授業内で配付した資料の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「生理学」医歯薬出版

「生理学インパクト」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

本授業では主に生理学の内容を重点的に学習します。基礎医学の重要性を把握し、論理的に思考できる能力を培いましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖生理学 I ）

回数	授業内容
1	生命現象とホメオスタシス
2	細胞の構造と機能
3	体液の組成と働き
4	血液の組成と働き
5	心臓の構造と働き
6	血液循環
7	循環調節
8	呼吸器の構造と働き
9	換気とガス交換
10	呼吸運動とその調節
11	消化管の構造と働き
12	消化と吸収
13	肝臓の構造と働き
14	栄養素の働きと代謝
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	体温調節
18	体熱の産生と放散
19	発汗とその調節
20	腎臓の構造と働き
21	尿生成
22	腎臓と体液の調節
23	蓄尿と排尿
24	ホルモンの特徴
25	ホルモンの種類（1）
26	ホルモンの種類（2）
27	生殖
28	妊娠と出産
29	成長
30	老化
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

予防医学，環境改善，生活水準の保障，健康教育，精神保健，産業保健，感染症などを学習する

2 到達目標

衛生学・公衆衛生学の分野に関して，集団の健康と疾病予防，疫学と保健対策等について基本的知識を習得する。

3 授業の方法

教科書，配付プリントを中心とした講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

各単元終了後に小テストを行いますので，配付資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「衛生学・公衆衛生学」医歯薬出版

「公衆衛生学がみえる」メディックメディア

8 学生へのメッセージ

衛生学は疾病予防と健康の保持・増進のための学習であり，この知識は個人だけでなく自身を取り巻く集団の健康にとっても重要なものとなります。特に新型コロナウイルスが流行している昨今，関心を持って授業に取り組んでください。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

回数	授業内容
1	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義,
2	第2章 健康
3	第3章 ライフスタイルと健康
4	第4章 環境と健康
5	第5章 産業保健
6	第6章 精神保健
7	第7章 母子保健
8	第8章 学校保健
9	第9章 成人・高齢者保健
10	第10章 感染症とその対策
11	第11章 消毒法
12	第12章 疫学
13	第13章 保健統計
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅰ（東洋医学概論Ⅰ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

人体のしくみについて、東洋医学ではどのように考えられているのかを学ぶ。
臨床における、東洋医学特有の所見の集め方について学ぶ。

2 到達目標

人体を構成する気血津液や臓腑の働きを理解する。
所見を集める手法（四診）を学び、その意義について説明できるようになる。

3 授業の方法

教科書，配付プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・配付プリントでの予習・復習，国家試験過去問集での復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

東洋医学は、昔から積み上げられてきた臨床経験をもとに体系化された医学です。科学がない時代に、人間の身体についてどのように考えられていたのか、どのように診察をしていたのか。当時の生活を想像しながら学びましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅰ（東洋医学概論） ）

回数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴 治療論・治療法
2	第2章 生理物質（1）精の生理
3	第2章 生理物質（2）気の生理
4	第2章 生理物質（3）血・津液の生理
5	第2章 生理物質（4）陰陽の生理
6	第2章 蔵象（1）奇恒の腑
7	第2章 蔵象（2）六臓 脾の生理
8	第2章 蔵象（3）六臓 心・心包の生理
9	第2章 蔵象（4）六臓 肺の生理
10	第2章 蔵象（5）六臓 肝の生理
11	第2章 蔵象（6）六臓 腎の生理
12	第2章 蔵象（7）六腑 胃・小腸・大腸の生理
13	第2章 蔵象（8）六腑 膀胱・三焦・胆の生理
14	第2章 神と情志
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章 蔵象（9）生理物質の相互関係
18	第2章 蔵象（10）気機の相互関係
19	第2章 蔵象（11）五臓の相互関係・六腑の協調関係
20	第4章 四診（1）望診 神色形態
21	第4章 四診（2）望診 舌診
22	第4章 四診（3）聞診
23	第4章 四診（4）問診 主訴
24	第4章 四診（5）問診 基本的問診事項（寒熱・飲食・睡眠）
25	第4章 四診（6）問診 基本的問診事項（二便・情志・生活環境）
26	第4章 四診（7）問診 その他の問診事項（身体各部位）
27	第4章 四診（8）問診 その他の問診事項（汗・疼痛）
28	第4章 四診（9）問診 その他の問診事項（女性）
29	第4章 四診（10）切診 切経・切穴・腹診
30	第4章 四診（11）切診 脈診
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅱ（歴史） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

自然や人体についての、東洋医学的な分類法を学ぶ。
東洋医学における、病の原因や種類について学ぶ。

2 到達目標

- ・陰陽五行の相互関係について説明できるようになる。
- ・五行色体表を全て覚える。
- ・弁証を理解し、症状から気血津液の状態を推測できるようになる。

3 授業の方法

教科書，配付プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・配付プリントでの予習・復習，国家試験過去問集での復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

東洋医学は、自然と人間との関わりを大切にしています。物事を二つに分ける陰陽，五つに分ける五行を知り，それを医学にどう生かしてきたのかを学びましょう。人間が自然から受ける影響，病の種類，表れる症状について理解し，東洋医学の眼で患者さんを診られるようになりましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅱ（歴史） ）

回数	授業内容
1	東洋医学について
2	第3章 陰陽学説
3	第3章 五行学説（1）五行の相互関係
4	第3章 五行学説（2）五行色体表
5	第3章 五行学説（3）五行色体表 確認テスト
6	第2章 病因病機（1）外感病因 風邪・寒邪・湿邪
7	第2章 病因病機（2）外感病因 燥邪・熱邪・疫癘
8	第2章 病因病機（3）内傷病因 飲食不節
9	第2章 病因病機（4）内傷病因 劳逸・房事過多・七情内傷
10	第2章 病因病機（5）病理産物・その他の要因
11	第2章 病因病機（6）病機 内風・内寒
12	第2章 病因病機（7）病機 内湿・内燥・内熱
13	第2章 蔵象（1）経絡
14	第2章 蔵象（2）五臓の関連領域の気機
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第1章 治療論
18	第5章 弁証（1）八綱弁証
19	第5章 弁証（2）気血津液弁証 気病証・血病証
20	第5章 弁証（3）気血津液弁証 津液病証・精病証
21	第5章 弁証（4）気血津液弁証 陰陽病証・複合病証
22	第5章 弁証（5）臓腑弁証 肝胆病証
23	第5章 弁証（6）臓腑弁証 心小腸病証
24	第5章 弁証（7）臓腑弁証 脾胃病証
25	第5章 弁証（8）臓腑弁証 肺大腸病証
26	第5章 弁証（9）臓腑弁証 腎膀胱病証
27	第5章 弁証（10）臓腑弁証 複合病証
28	第5章 弁証（11）経絡弁証
29	第5章 弁証（12）六淫弁証・六経弁証
30	第5章 弁証（13）衛気営血弁証・三焦弁証
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅲ（経絡経穴概論） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

鍼灸師として必須の知識である経絡経穴について学習する。

2 到達目標

- ・経絡系統の分類，骨度法を言える。
- ・十四経脈の経穴を書けて，言えて，取穴部位を指さすことができる。
- ・十四経脈の要穴を言えて，書ける。
- ・奇経八脈および八脈交会穴，奇穴の主治症と取穴部位を理解できる。

3 授業の方法

教科書，配付プリント，パワーポイントによる講義と取穴練習

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

経絡経穴は毎日勉強することが習得の近道です。毎日短時間でも集中し，隙間時間と視覚・聴覚を有効に使って学習しましょう。

7 使用教材，教具

「新版経絡経穴概論第2版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

まずはすべての経絡・経穴を頭に入れていきましょう。1年間で覚えきる覚悟で臨んでください。また，担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅲ（経絡経穴概論） ）

回数	授業内容
1	授業説明，経絡・経穴とは
2	経絡・経穴の基礎（骨度法，体標指標，要穴の概略）
3	督脈 解説
4	督脈 取穴練習
5	任脈 解説
6	任脈 取穴練習
7	手の太陰肺経 解説・取穴練習
8	手の陽明大腸経 解説・取穴練習
9	足の陽明胃経① 解説・取穴練習（承泣～気衝）
10	足の陽明胃経② 解説・取穴練習（髀關～厲兌）
11	足の太陰脾経 解説・取穴練習
12	手の少陰心経 解説・取穴練習
13	手の太陽小腸経 解説・取穴練習
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	足の太陽膀胱経① 解説・取穴練習
18	足の太陽膀胱経② 解説・取穴練習
19	足の太陽膀胱経③ 解説・取穴練習
20	足の少陰腎経 解説・取穴練習
21	手の厥陰心包経 解説・取穴練習
22	手の少陽三焦経 解説・取穴練習
23	足の少陽胆経① 解説・取穴練習（瞳子髎～風池）
24	足の少陽胆経② 解説・取穴練習（肩井～足竅陰）
25	足の少陽胆経③ 解説・取穴練習
26	足の厥陰肝経 解説・取穴練習
27	奇穴① 頭頸部・胸腹部・背部
28	奇穴② 上肢・下肢
29	奇経八脈
30	現代的研究
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

鍼灸師として必須の知識である経絡経穴を学習する。基礎はりきゅう学Ⅲ（経絡経穴概論）と連動する科目として、国家試験の過去問題を解きながら理解を深める。

2 到達目標

経絡経穴の基礎，十四経脈，奇穴の取穴部位，要穴，奇経八脈，現代的研究に関する国試過去問題を理解し，解答ができる。

3 授業の方法

教科書，配付プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日，教科書や要穴表を見て，習得できているか確かめる。

7 使用教材，教具

「新版経絡経穴概論第2版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

経絡・経穴を1年間で覚えきる覚悟で臨んでください。声に出しながら，自分や知人の身体で取穴練習すると暗記しやすいです。また，担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	授業説明，教科書を見やすくする
2	国家試験について，過去問配布・解説（基礎・接続・流注）
3	督脈 経穴確認プリント
4	督脈 指さし呼称
5	任脈 経穴確認プリント
6	任脈 指さし呼称
7	手の太陰肺経 経穴確認プリント
8	手の陽明大腸経 経穴確認プリント
9	足の陽明胃経① 経穴確認プリント（承泣～気衝）
10	足の陽明胃経② 経穴確認プリント（髀関～厲兌）
11	足の太陰脾経 経穴確認プリント
12	手の少陰心経 経穴確認プリント
13	手の太陽小腸経 経穴確認プリント
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	足の太陽膀胱経① 経穴確認プリント
18	足の太陽膀胱経② 経穴確認プリント，横並び説明
19	足の少陰腎経 経穴確認プリント
20	手の厥陰心包経 経穴確認プリント
21	手の少陽三焦経 経穴確認プリント
22	足の少陽胆経 経穴確認プリント
23	足の厥陰肝経 経穴確認プリント
24	経穴カルタ①（要穴）肺経・大腸経
25	経穴カルタ②（要穴）胃経・脾経
26	経穴カルタ③（要穴）心経・小腸経
27	経穴カルタ④（要穴）膀胱経・腎経
28	経穴カルタ⑤（要穴）心包経・三焦経
29	経穴カルタ⑥（要穴）胆経・肝経
30	経穴カルタ⑦（要穴）表彰，後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅰ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

経穴（あるいは目的とした筋）に対して、適切な消毒、刺鍼、抜鍼までの操作ができるようになることを目的とする。

2 到達目標

- ・片手挿管を1分間に10回以上できる。
- ・指定した角度と目的の深さに鍼を刺入できる。

3 授業の方法

担当教員の実務経験をもとに、実務に必要な技術・知識の習得を促す。実技室にて、実際の鍼を用いて実技を行う。課題となる経穴に指定された角度、深度に刺入する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 55%，授業態度 45%

5 評価の際の特記事項

授業時、むやみに騒いだり、参加が消極的な場合には授業態度を成績評価に加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業内で出題された経穴を必ず取穴できるように、経絡経穴概論の教科書で復習する。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技 基礎編」医道の日本社
「新版 経絡経穴概論第2版」医道の日本社
セイリン ディスポーザブルステンレス鍼各種

8 学生へのメッセージ

日本で行われている鍼の基礎となる「管鍼法」を練習する授業です。最初に習う押手と刺手をしっかり行うことで痛みのない刺入が可能となるため、最初から気を抜かずに1つずつの動作をできるようになるまで練習してください。

9 教員氏名（ 小嶺由美 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう実技Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション、衛生管理（手洗い、消毒について）
2	鍼の種類と刺法について
3	片手挿管（１） 弾入と切皮
4	片手挿管（２） 送り込み刺法
5	片手挿管（３） 旋撚刺法
6	片手挿管テスト（１） 斜刺、横刺（水平刺）
7	片手挿管テスト（２） 鍼治療における過誤・副作用
8	下肢の自己刺鍼（１）
9	下肢の自己刺鍼（２）
10	大腿前面部の刺鍼
11	下腿前面部の刺鍼
12	下腿後面部の刺鍼
13	下腿内側部の刺鍼
14	前腕外側部の刺鍼
15	前期試験
16	前腕前面部の刺鍼
17	腰部の刺鍼
18	中背部の刺鍼
19	上背部の刺鍼
20	肩甲部の刺鍼
21	肩背部の刺鍼
22	頭頂部・後頸部の刺鍼
23	腹部の刺鍼
24	前胸部・肩部の刺鍼
25	側頸部の刺鍼
26	臀部・股関節部の刺鍼
27	頭・顔面部の刺鍼
28	治療してみよう（１）
29	治療してみよう（２）
30	総復習
31	後期試験
32	後期試験のフィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・施灸の基礎技術および患者対応の基本を学び修得する。
- ・施灸の基本動作を繰り返し練習し、安全かつスムーズな施灸を目指す。

2 到達目標

- ・板上施灸で、前期は3分間20壮、後期は3分間30壮できる。
- ・対人施灸で、指定経穴に施灸し、部位を答えられる。
- ・施術者として相手への気遣いおよび自己管理ができる。

3 授業の方法

- ・担当教員の実務経験を基に、基礎技術および知識の習得を促す。そのため、実技室を鍼灸院と想定して実施する。相手を患者として、声掛けやタオルワーク、施灸を行う。
- ・施灸は板上から始めて、自分、対人と段階的に進行し、実際の施術に近づけていく。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技能の向上のために、自主トレーニングを積み、授業に臨むこと。

7 使用教材、教具

「はりきゅう実技基礎編」，「新版経絡経穴概論」（医道の日本社）

8 学生へのメッセージ

臨床でお灸を希望する患者さんはたくさんいらっしゃいます。まずは施灸の基礎技術を習得し、あわせて臨床で役に立つ灸法を実践できるようになっていきましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	授業説明，実技道具の配布・説明，板の線引き
2	お灸って何？道具の準備，艾を立ててみよう，艾のひねり方，爪の整え方
3	板の準備，線香の持ち方，点火，灰のはらい方
4	板上施灸（1）実技室の使い方，実技受講のルール，板上施灸の仕方
5	板上施灸（2）時間を測ってみよう
6	板上施灸（3）中間チェック
7	自己施灸（1）知熱灸（板上練習，合谷）
8	自己施灸（2）知熱灸（合谷，手三里，陽溪，曲池，尺沢）
9	自己施灸（3）知熱灸（足三里，三陰交，陰陵泉，血海，太衝）
10	自己施灸（4）知熱灸（中間チェック，台座灸の使い方）
11	対人施灸（1）施術の準備，背部の体表指標
12	対人施灸（2）督脈取穴（腰陽関～大椎）
13	対人施灸（3）督脈取穴（腰陽関～大椎），知熱灸
14	対人施灸（4）試験練習（3人1組）
15	実技試験
16	前期まとめ
17	足の太陽膀胱経施灸① 背部触診，胃の六つ灸
18	足の太陽膀胱経施灸② 一行線，二行線（大杼～胃兪，附分～胃倉），透熱灸
19	足の少陰腎経施灸
20	手の厥陰心包経施灸，透熱灸
21	手の少陽三焦経施灸
22	足の少陽胆経施灸①
23	足の少陽胆経施灸②
24	足の少陽胆経施灸③
25	足の厥陰肝経施灸
26	奇穴取穴①（頭頸部・胸腹部・背部・四華・患門）
27	奇穴取穴②（上肢・下肢），透熱灸
28	艾作成（1）よもぎ茎とり
29	艾作成（2）手もみ，低精製艾，高精製艾
30	対人試験練習
31	実技試験
32	艾作成（3）塩灸

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅲ（臨床実習前施術実技試験） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・臨床実習の事前準備として、施術所を想定した患者対応・手技療法・取穴・刺鍼・施灸練習を繰り返し行い、安全に施術するたまたの基礎技術を身につける。
- ・患者と良好な関係を構築するために、医療従事者としての基本的な態度を学ぶ。

2 到達目標

- ・臨床現場を想定した準備，言葉遣い，患者誘導，タオルワークができる。
- ・前期で得た知識・技術をもとに，的確で安全な取穴・刺鍼・施灸が素早くできる。
- ・手技療法の基本ができる。

3 授業の方法

実技を中心に，座学やグループワークも行います。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

その日学習した内容を復習すること。

7 使用教材，教具

「新版経絡経穴概論」医道の日本社

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

臨床現場を意識して，実際の患者対応を念頭において取り組みましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう実技Ⅲ（臨床実習前施術実技試験） ）

回数	授業内容
1	鍼灸治療院について考える（グループワーク）
2	付属施術所見学
3	患者案内の練習 4 5 分
4	取穴・刺鍼・施灸練習（1）督脈、任脈
5	手技療法（1）理論、基礎手技
6	手技の確認（基礎手技） 4 5 分
7	取穴・刺鍼・施灸練習（2）手太陰肺経、手少陽三焦経
8	手技療法（2）肩背部
9	手技の確認（肩背部） 4 5 分
10	取穴・刺鍼・施灸練習（3）手陽明大腸経、手厥陰心包経
11	手技療法（3）上肢
12	手技の確認（上肢） 4 5 分
13	取穴・刺鍼・施灸練習（4）手太陽小腸経、手少陰心経
14	手技療法（4）頸部
15	手技の確認（頸部） 4 5 分
16	取穴・刺鍼・施灸練習（5）足の少陽胆経
17	手技療法（5）頸部～肩背部～上肢の組合せ
18	手技の確認（頸部～肩背部～上肢の組合せ） 4 5 分
19	取穴・刺鍼・施灸練習（6）陽明胃経、足少陰腎経
20	手技療法（6）腰部、殿部
21	手技の確認（腰部、殿部） 4 5 分
22	取穴・刺鍼・施灸練習（7）足太陰脾経、足厥陰肝経
23	手技療法（7）下肢
24	手技の確認（下肢） 4 5 分
25	取穴・刺鍼・施灸練習（8）足太陽膀胱経
26	手技療法（8）腰部～殿部～下肢の組合せ
27	手技の確認（腰部～殿部～下肢の組合せ） 4 5 分
28	取穴・刺鍼・施灸練習（9）上半身
29	手技療法（9）全身リラクセーション
30	手技の確認（全身リラクセーション） 4 5 分
31	取穴・刺鍼・施灸練習（10）下半身
32	手技療法（10）全身リラクセーション
33	手技の確認（全身リラクセーション） 4 5 分
34	試験前実技の確認
35	実技試験
36	まとめ 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅰ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を体験する。

2 到達目標

- ・態度・習慣 施術所の診療形態を理解し，臨床スタッフとしての行動ができる。
- ・情報収集・記録 見学したことの理解を深めるために自ら調べ，記録できる。
- ・施術へのアプローチ 安全性・清潔操作に配慮できる。使用経穴や部位を把握できる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

教員による実習中の継続評価，実習日誌，施術見学記録をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，自ら調べ，質問すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅰ ）

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習（1）
2	施術所の運営および施術の体験・練習（1）
3	施術所の運営および施術の体験・練習（1） 4 5 分
4	施術所の運営および施術の体験・練習（2）
5	施術所の運営および施術の体験・練習（2）
6	施術所の運営および施術の体験・練習（2） 4 5 分
7	施術所の運営および施術の体験・練習（3）
8	施術所の運営および施術の体験・練習（3）
9	施術所の運営および施術の体験・練習（3） 4 5 分
10	施術所の運営および施術の体験・練習（4）
11	施術所の運営および施術の体験・練習（4）
12	施術所の運営および施術の体験・練習（4） 4 5 分
13	施術所の運営および施術の体験・練習（5）
14	施術所の運営および施術の体験・練習（5）
15	施術所の運営および施術の体験・練習（5） 4 5 分
16	施術所の運営および施術の体験・練習（6）
17	施術所の運営および施術の体験・練習（6）
18	施術所の運営および施術の体験・練習（6） 4 5 分
19	施術所の運営および施術の体験・練習（7）
20	施術所の運営および施術の体験・練習（7）
21	施術所の運営および施術の体験・練習（7） 4 5 分
22	施術所の運営および施術の体験・練習（8）
23	施術所の運営および施術の体験・練習（8）
24	施術所の運営および施術の体験・練習（8） 4 5 分
25	施術所の運営および施術の体験・練習（9）
26	施術所の運営および施術の体験・練習（9）
27	施術所の運営および施術の体験・練習（9） 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅰ（生体観察） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

「経絡経穴概論」で学ぶ経穴や経絡を実際の人体に取穴して、その経穴の解剖学的な位置や各経穴の配置について、体験しながら学ぶ。また施術者としての衛生観念を養う観点から、衛生学を学習する。

2 到達目標

- ・十四経脈の経穴を取穴し、呼称で言えるようになる。
- ・経穴取穴の指標になる解剖学的指標となる特徴的な骨や関節、筋を答えることができる。

3 授業の方法

実技室にて2人1組で取穴を行う。かならず白衣を着用すること。

4 成績評価方法・基準

実技試験 55%, 授業態度 45%

5 評価の際の特記事項

実技試験の点数にて評価します。また、授業態度も加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

指定した経穴については必ず授業前までに覚えてくること。

7 使用教材、教具

「新版 経絡経穴概論第2版」医道の日本社、 「解剖学」医道の日本社
「衛生学・公衆衛生学」

8 学生へのメッセージ

「経絡経穴概論」で経穴を覚えても、しっかりその経穴の位置を把握できていなければ鍼を打つことはできません。そのため、経穴を正確に探せるように解剖学的な位置の把握をする必要があります。実際の臨床の中での実体験も交えながら、授業を行って行きたいと思います。頑張りましょう。

9 教員氏名（ 小嶺 由美、 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅰ（生体観察） ）

回数	授業内容
1	治療姿勢について
2	公衆衛生学 衛生学・公衆衛生学とは
3	解剖学的姿勢・部位名称について
4	公衆衛生学 衛生学・公衆衛生学の活動
5	取穴法、骨度法（上肢）
6	公衆衛生学 健康とは
7	骨度法（下肢）
8	公衆衛生学 健康管理
9	骨度法（頭部、顔面部）
10	公衆衛生学 健康増進
11	骨度法（胸部、腹部、季肋部）
12	公衆衛生学 衛生行政
13	骨度法（上背部）
14	公衆衛生学 食品と栄養
15	膝関節周囲の解剖学的指標と経穴
16	公衆衛生学 運動と健康
17	足部の解剖学的指標と経穴
18	公衆衛生学 環境とは
19	下腿（前面）の解剖学的指標と経穴
20	公衆衛生学 日常生活環境
21	下腿（内側面）の解剖学的指標と経穴
22	公衆衛生学 環境問題
23	下腿（外側面）の解剖学的指標と経穴
24	公衆衛生学 産業保健
25	下腿（後面）の解剖学的指標と経穴
26	公衆衛生学 労働環境
27	上肢（回内位）の解剖学的指標と経穴（１）
28	公衆衛生学 業務上疾病
29	上肢（回外位）の解剖学的指標と経穴（２）
30	公衆衛生学 精神の健康
31	定期試験
32	定期試験
33	脊柱（腰部）の解剖学的指標と経穴
34	公衆衛生学 精神障害の現状と分類

35	脊柱（中背部）の解剖学的指標と経穴
36	公衆衛生学 母体の健康
37	脊柱（上背部）の解剖学的指標と経穴
38	公衆衛生学 乳幼児の健康
39	肩甲部の解剖学的指標と経穴
40	公衆衛生学 学校保健の意義
41	肩背部の解剖学的指標と経穴
42	公衆衛生学 感染症の分類（１）
43	頭頂部・後頸部の解剖学的指標と経穴
44	公衆衛生学 感染症の分類（２）
45	体幹前面（腹部）の解剖学的指標と経穴
46	公衆衛生学 感染症予防の原則
47	前胸部・肩部の解剖学的指標と経穴
48	公衆衛生学 消毒法一般
49	側頸部の解剖学的指標と経穴
50	公衆衛生学 医療関連感染の予防
51	臀部・股関節部の解剖学的指標と経穴
52	公衆衛生学 疫学概念と意義
53	頭・顔面部の解剖学的指標と経穴
54	公衆衛生学 疫学調査研究の段階と実例
55	頸部施術における静的観察
56	公衆衛生学 保健統計の意義
57	頸部施術における動的観察
58	公衆衛生学 主要な保健統計指標①
59	総復習
60	公衆衛生学 主要な保健統計指標②
61	定期試験
62	定期試験
63	解説・フィードバック
64	公衆衛生学総復習

